

福島原発事故から「新しい日常」への道のり：
2016年調査の自由回答欄にみる
福島県中通りの親子の生活と健康

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

『中京大学現代社会学部紀要』 第11巻 第2号 抜刷

2018年3月 PP. 99~170

福島原発事故から「新しい日常」への道のり： 2016年調査の自由回答欄にみる 福島県中通りの親子の生活と健康¹

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

1 問題の所在

震災から5年経とうとしている今も、まだ、「もし原発事故さえないなら」と、何度もくり返し思う。外あそび、散歩が大すきな息子は当時2才。毎日自分の興味に沿い、外遊び、自然遊びを楽しんでいた。毎日子どもの目線で新しい発見があり、親も純粹に子どもの感性に感動していた。子ども中心のゆったりとした、ささやかなあたり前の日常があった。子どもの成長が幸せだった。原発事故後、素人の母親は子どもを守るため、情報を必死に集め、自己責任で行動を選択することを強いられた。引越もし、家族の形も変わり、結果、母子2人で実家に戻り、現在に至る。実家には、息子の部屋はない。母子2人でのんびりすごす、空間（部屋）がない、いつも老夫婦（祖父母）のみるテレビが無駄につけられた茶の間で横になることもできず、気をつかう毎日。食事の好みも生活時間（リズム）もちがう2家族がムリやり同居することは、いくら血のつながりはあるとはいへども、実家とはいへども、せまい空間に多くの人々が寄せ合っ暮らした仮設暮らしと似ている。子どももストレスから落ちつきがなくな

り、言動が粗暴になってきたことが、心配。でもガマンしながら窮屈な思いをしながらもこの家に住みつづけることしか今現在の選択のしようがない厳しい現実。それだけが原因ではないことは百も承知で、だれかのせいにしただけなのはわかっているが、それでもまだ「原発事故さえなければ」と思ってしまう自分がある。ささやかな日常の中にあっただけの輝いていた幸せがなつかしい。

上記は、福島のある母親が調査票に書き込んだ内容である。原発事故から5年間を振り返り、当たり前前の日常が奪われ、「原発事故さえなければ」と思う母親の心境が語られている。一方、別の母親は、同じ調査票に「3月をすぎると、また忘れられている」と、原発事故が風化していく様子を捉えている。

2011年3月11日の東日本大震災及びそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故(以下「福島原発事故」)が、福島県中通り9市町村の2008年度出生児及びその母親(または保護者、以下「母親」)の生活と健康にどのような影響を及ぼしているのか。本稿は、2016年1月に実施した「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」の自由回答欄に書き込まれた声を分類し、まとめたものである。

調査対象地域の福島県中通り9市町村は強制避難区域に隣接した地域であるが、地域によって放射線量のばらつきが大きく、また放射能の健康影響についての考え方と放射能リスクへの対処の仕方が多様である。したがって、放射能への不安とリスク対処行動をめぐって、葛藤や分断が生じやすい場所である。原発事故から5年近く経過した2016年1月の時点で、子どもの外遊びや食生活を気にする母親がいる一方、事故前の生活にはほぼ戻ったと回答する母親もいる。母親たちの多様な声を分類し記録することによって、福島原発事故から「新しい日常」への道のりを跡づけることが本稿の目的である。大震災、津波、原発事故という「非日常」から、ゆっ

くり「日常」へ戻りつつある。しかし、放射線量も人々の意識も単純に元の状態に戻ったわけではない。ましてや、人びとの暮らしぶりはもっと複雑で、個人間でも個人内でも変化のバリエーションがある。とりわけ、子どもの将来について、大いなる不安が表明されている。と同時に、前を向いて歩き出している。ここではそれを「新しい日常」と名づけている。福島親子の「新しい日常」とはどのようなものか、また、それがこの5年の歳月においてどのように変化してきたのか、小さきもの声、子育て中の母親の声を拾い上げることによって、「新しい日常」をほんの僅かでも垣間見ることが出来ればと願っている。

われわれ「福島子ども健康プロジェクト」は、福島県中通り9市町村に住所のある2008年度出生児²及びその母親を対象に、2013年1月、2014年1月、2015年1月、2016年1月、2017年1月に、それぞれ「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」（以下「本調査」）を実施し、2018年1月現在、第6回調査を実施している。これらの調査は、同一世帯における同一の子ども及びその母親を追跡調査し、「福島原発事故」後、福島で子育て中の母親が感じていることを生活記録として残す作業を行っている。避難区域外の福島県中通り9市町村において、親子の生活と健康がどのように変化していくのかを、調査対象者の子どもたちが成人するまで定期的に調査を続け、次の世代に伝えていきたいと考えている。

2016年1月の第4回調査においては、「東日本大震災・福島原発事故から、まもなく5年になります。今の心境を率直にお書きください」という自由回答欄のリード文に、回答総数1021名のうち、612名が自由記述を記入している。本稿は、2013年調査³、2014年調査⁴、2015年調査⁵の自由回答と比べて、2016年の自由回答欄に書き込まれた母親の声にどのような変化が生じているのかに焦点を当てる。これにより、不安・心配と前向きな態度との気持ちの揺らぎと戸惑いを抱えながらも、原発事故から「新しい日常」への道のりを記録することにした。

2016年調査の自由回答欄には多種多様な意見が寄せられているが、声

の分類は2013年・2014年・2015年調査と共通の枠組みを利用している。そこで、本稿でも2013年調査と同様、母親の意見を①生活拠点、②(食)生活、③家計、④子育て、⑤人間関係、⑥情報、⑦賠償・補償、⑧対応全般、⑨健康の9つのカテゴリーに分類した。これらの9つの分類項目ごとの意見及びその特徴を記述し、最後に、全体の傾向や変化を踏まえた考察を行う。

本稿で取り上げる自由回答は、2016年の上半期の時点での意見であり、その後、こうした意見や状況が変化している可能性がある。なお、本稿での自由回答の掲載方針について示しておきたい。第1に、上記の分類項目に該当する意見を網羅的に掲載するようにした。ただし、個人が特定できる情報は掲載を見送った。具体的には市町村名、大字名の単位では個人が特定しにくいので掲載するが、それより小さい単位は掲載を見送った。その場合は、同じ趣旨の意見で個人が特定しにくい意見を掲載した。第2に、自由回答欄に書き込まれた意見は手書きであり、誤字・脱字も多いが、最低限の修正にとどめた。

2 生活拠点

(1) 避難関係

生活拠点のうち、避難に関する意見は、①「避難継続中」、②「避難したが戻ってきた」、③「避難したいができない」、④「避難しない」の4つに分けられる。

ア 避難継続中

避難を継続している家庭の中には、安心して過ごせているので避難して良かったという声が聞かれる一方、新しい土地での生活を継続することの不安や、借り上げ住宅の終了に対する不安の声、離れて暮らす家族の心配、依然として避難して良かったのかと自問する声も聞かれた。

避難してよかった

- ・新潟に自主避難して間もなく3年になろうとしています。子どもも小学生になり、元気に学校に通っています。主人を説得するのは大変でしたが、勇気を出して引越ししてきて本当によかったです。毎年3月になると震災を思い出す機会が増えます。風化させないこと、前を向いて生きていくことが何より大切なことだと思います。
- ・夫や義父母の理解もあり、母子避難を続けていられるので、このまま高校までは米沢で暮らしたいと思っています。
- ・どんどん風化していくが本当に安全になったのか？本当にそれでいいのか不安。現在愛知県在住であり、だから帰りたとは思わない。
- ・今まで戸外あそび、砂あそびに悩みがあったが、今はその分沢山あそんでほしい！と毎日、帰宅後は好きなように好きな場所で夕方まで遊ばせることができ、遊んでる最中も自由に・・・という心が持ててストレスもなくなった。なかなか、以前は、避難したくてもできなくていたが現在はこの環境に満足している。ただ、帰省しての帰宅後は、子どもたちは郡山にもどりたいたいと口にするが、今は考えていない。しばらく、のびのび遊べるこの地で生活したいと強く思う。

継続できるか不安

- ・新しい土地で生活をしていく上で、お金がかかり、この先子供達を育てていくことが出来るか不安です。将来が見えません。お金がほしい。子供達に無理をさせたくありません。
- ・今、生後2ヶ月の子供がいます。なかなか、夫がふだんいないので、上の子（小1）と下の子の世話で大変。すぐたよれる人（みてほしいときにみてもらえない）がいないので、つらいところです。ふくしまに帰ればいいのですが、かえりたくはないです。
- ・主人の一人暮らしも長くなり、2年後戻る予定。私も含め、家族の心の安定のためにこれ以上離れてくらすのは無理。

経済的に苦しい

- ・家計的にはゆとりはないが家族4人暮らしていける今の状態だが、貯金を使うしかなかった過去5年だったので、ギリギリの生活で、ここから移動しなくてはならない今、(避難中で2017年3月で住居打ち切りが決定)引っ越し費用も大きいので難しい状況です。もう少し時間の猶予が欲しい。避難区域でないと、自費でやらなければならないので苦しい。

今後のことが心配

- ・子供の健康が心配で避難しているが、福島に持ち家があるため、いずれは戻ることになると思う。戻るタイミングについて悩むことがある。そして戻れば戻ったで、健康の心配やご近所の方とうまくお付き合いできるかなど、心配なことはたくさんある。
- ・子供がおじいちゃんとおばあちゃんと実家が大好きで、時々帰ると本当に幸せそうな安心した顔になります。避難先へ戻る道中ずっとさみしくて泣いています。私も辛くて泣いてしまいます。でも実家へ帰ると子どもは鼻血か咳が出たり、私は咳と腹痛・嘔吐があり、とても不安になります。でもまわりの人たちは普通に生活しているので、不安な気持ちを言う事はできません。避難したまま戻らない私たちから、家族、友人が離れていきます。どんどん意見が合わなくなっています。今後どうしていいか全く分かりません。
- ・お金のことはともかく新潟に住んでとても気分良くすごせているのが一番良いことなのですが、高齢の父を郡山に残していること(母、義母は震災後病気で亡くなりました。影響は強く感じています)多数の核種があるのに一部分しか調べず発表していないことがとても不安です。
- ・避難生活や経済的なことに行き詰まりを感じてきている。借り上げも終了が決まり、絶望しています。

移住への迷い

- ・約2年前夫の仕事で転勤で他県へ引っこしました。福島での生活とくらべると線量を気にしなくてよいのがこんなにも精神的楽なんだと感じてい

ます。（子どもの行動を制限しなくてよいことなど）第2原発の廃炉の状況を考えると将来、福島へ戻りたくても戻れないだろうと夫と話すことがあります。（長男なのですが・・・）本当は福島好きなので親も住んでいることも有、近くで生活したいです・・・。（このまま今住んでいる所（群馬）に永住を夫は考え中・・・）

- ・希望転勤をして3年がたちました。福島に帰りたいたい気持ちと子供のために、きれいな空気の県外にいたいという気持ちがあり、未だに結論ができません。親が（自分と夫の）福島にいるので、近くに行つて（住んで）安心させたいとも思いますが、なかなか夫の仕事もありうまくはいきません。せめて、もう少し近くに行きたい、車で気楽に行き来、出来る所に住めたらいいなと思っています。安心して住める福島は、何年後かなあと時々考えています。
- ・元の居住地が福島市（夫はまだ住んでいる）で、避難の対象にはならないが、放射線による汚染はやや高めという中途半端な地域なので、どうしたらいいのかよく分からない。夫の健康も心配。普通に暮らしている人もいるのに自分たちはその地を離れたのは、過敏すぎるのかと思うことも。

避難したことに負い目を感じる

- ・あの地を離れてしまったことに負い目を感じます。これは一生忘れない、消えない思いなんだなと感じています。国はやるべき事をしてきているのかととても不安に思います。
- ・たまにふくしまへ帰るが、近所の人に会いにくい。

イ 避難したが戻ってきた

震災から5年が経ち避難先から福島に戻ってきた人もいる。福島に戻ってきた人のなかには、戻った先の人間関係に不安を感じたり、放射線への不安を感じたりする人もいた。

避難した先から福島へ戻り不安

- ・丁度震災時に3/14に生まれた子供が、今年年長になります。自閉症傾向があり、就学に向けて、心配な点が多々あります。避難先から帰還して3年目になります。長女が転校して来て、周囲となじめず、苦い経験もしました。今でも、震災がなければと思う事もありますが・・・、取り返しがつかないので、とにかく前を向くしかありませんが、仕事も小学校で特別支援介助員として、なんとか頑張っていると中なので、うまく両立させて、頑張りたいと思います。
- ・福島に4月から戻り、こちらの生活にも慣れてきました。避難していた時は、福島は危ないという情報をよくみていましたが、戻ってからは“安全”という情報をみているような気がします。本当にこれでよいのか時々不安になりますが半ば“運命”と思いあきらめている部分もあります。
- ・震災後、山形へ避難し、昨年次男小学校へ入学のタイミングで福島に帰ってきました。長男は転校ということでも不安だったのですが、転校生の多さに心強く(多分同じような人)すぐ友達も出来、安心しました。しかし、体育や外遊びなど山形でのびのびとしてきたことと違い体を動かせないストレスのようなものを感じています。

精神的に安定

- ・原発事故直後、また避難している当時は、福島県や福島市はもう終わりだと非常に悲観していたが、徐々に放射線の実態や除染が進み、一応安心して住めるようになり、とても嬉しく感じる。やはり、家族と我が家で、地元で生活するのは精神的に大きな安定である。

ウ 避難したいが、できない

家のローン、仕事、金銭面などを理由に、避難したいが、それができないという声も多く聞かれた。このような方の中には、避難せず、このまま福島で暮らしていくことに不安を感じるとともに、他方では、避難しなかったことへの「後ろめたさ」を感じる人もいる。

避難したかったが無理だった（持家、仕事）

- ・家あり、職業あり、家族あり、親ありのため失うものが多いので、避難はできない。何もない人は、うらやましい。考えるとイライラするが、そんなことでクヨクヨしてはられないので、毎日ポジティブに生活していて、けっこう楽しんでいる。
- ・仕事等の都合上避難したくてもできなかった方達（私も含め）は、放射能を心配しながら時には神経質になりながら必死に子育てをしています。しかし、避難している方（自主避難の方を含む）は、様々な支援やら補償やらを受けられています。同じ福島県民なのに不平等だと常に感じています。私達はこれからも子供達の将来を不安に感じながらも自力でがんばれと言われていたような気がしてなりません。福島で生まれ育ったことに複雑な気持ちです。
- ・持ち家の為、家を出る事も出来ず不安なまま子育てを続けているのが本音です。現在の健康状態より将来的に子供たちの成長過程に異常がでないか等、心配です。
- ・これからも、福島に住んでいても、大丈夫なのでしょう？主人の仕事の事を考えると福島に住むしかありません。これからの福島は良くなるのでしょうか？
- ・私の住む地域は、避難命令が出されている訳ではないので、自主避難するしかありません。ですが、避難したくても、家計が苦しく、避難となれば仕事も辞めなくてはならないため、更に苦しくなるため、避難出来ずにいます。

金銭面で困難

- ・福島で暮らしていく際マイナスなことがあったとしても金銭面で移動することは困難なので福島で安全に健康で過ごしていくためのアドバイスやリフレッシュできる支援はいつまでも続けて行ってほしいと思います。言葉に出来ない不安があります。でも悩んでいてもしかたない！前に進まなきゃ！と妥協したり、割り切って生活しています。

- ・お金がないからもう避難もできない。

エ 避難しない

生まれ育った福島で生きていこうと決断した声がある一方、避難せずに福島で生活していくことに不安を感じているという声も聞かれる。

福島で生きていく決意

- ・原発事故に対しては、様々な考えもあり、正直何が正しく間違っているのかわかりません。地域にも、住む所をなくして避難している方も大勢いて、生活しています。その中でもいろいろいて自分の価値観とは違う方も多く、考えさせられる事も多いです。ただやはり、福島で生活する事を決めたからには、ここで前を見て生活していく事が一番であり、そのために自分の思いを大切に生活して行くしかないのだと思います。自分の思いを押しつけるのではなく、自分らしく、子どもとすくすくするために、時には耳をかたむける事も必要だけど、やはり最後は自分で決めていくしかないのだと思います。
- ・福島を離れることができなかつたのは、生活面での不安があったから。残った以上、最善を尽くすしかないと思っています。
- ・5年前、東京の実家へ避難することも考えましたが、家族みんな一緒にいることを選びました。兄、姉共に災害におびえるようなこともなく、心は安定しているようです。

この選択がよかったのか不安

- ・子供はどんどん大きくなっているが、今のところ元気ですがこの選択がよかったのかと不安に思う（引っ越ししないこと）。私達は先がそんなに長くないですが子供のことを思うと、不安になる。外で遊ばせられなかった（今も）時間・・・自転車乗りや逆上がり、なわとび等ずいぶんおくらしている。成長過程で大切なことが出来なかった。年々大人はあきらめのように感じていくが子供のことだけは不安になる。
- ・福島にずっと住んでいて大丈夫なんだろうか・・・。もし将来子供達に

放射能の影響があつて何かしら問題が生じた時、国は見捨てずいてくれるだろうか…と不安になったりもします。もし子供達が大人になった時に何かあったらば・・・私は福島で生きると決意した自分が許せないでしょう。前向きでポジティブに考える方の人間ですが、子供達の未来も背負っていると思うと、やはり正直不安になります。

- ・もう震災から5年がすぎようとしています。周りから放射能の話はでなくなりしました。子育てをしていると本当に私の選択は正しかったのかと思うこともあります。自主避難せず、福島に残り食べ物、外遊びに気をつかう、周りには何ともないようにふるまっています。
- ・とにかく心配なのは、息子の体です。全く避難しませんでしたので、何かしらの影響が出ないかと、それだけです。きっと多くの親は同じ思いだと思います。

精神的苦痛

- ・商売にしているわけでもないのに、何の補償も受けられませんが、里山の生活にあこがれて都会から引越して来てこんな思いをするなんて、思いませんでしたので、残念でなりません。食べることのない食べ物の宝庫なのですから。（山や畑の汚染はひどいからですが）都会にいる子供や知人に、たくさん採れる野菜や山菜、木の実を送ってあげることもなくなりました。大きな損失です。家のまわりの土手に、ロープをおろし、幼い孫たちがよじのぼるサバイバル的遊びもできなくなりました。このことを毎年毎年考えてしまいます。長くずっとこの思いは続きます。避難もせずに、ずっと住み続けている人のそれぞれの「精神的痛み」も重なっていくのです。

オ 特徴

避難に関する意見の総数は、78件（2015年）から100件（2016年）に増加した。詳細には「ア 避難している」に関する意見は、26件（2015年）から38件（2016年）に増加し、「イ 避難したが戻ってきた」に関

する意見は、7件(2015年)から8件(2016年)にわずかに増加している。また「ウ 避難したいができない」に関する意見は、2015年と同じく23件(2016年)、「エ 避難しない」に関する意見は、22件(2015年)から31件(2016年)と増加した。

(2) 保養関係

保養に関する意見は、①「保養プログラムの拡充を望む」、②「保養に関する情報を得たい」、③「保養に満足した」の3つに分けられる。

ア 保養プログラムの拡充を望む

募集が減ってきている

- ・長期の休み、連休にはなるべく県外保養に行くようにしています。5年たつと募集も減って探すのも大変です。決まらないと自分がダメな親な様な感じ、見捨てられたような気持ちでつらくなります。
- ・福島の子供のための保養プロジェクトが段々減ってきています。まもなく5年になり、終了する保養も結構あるようです。年月も経ち、風化してきていますが、子供たちがのびのびと遊べる保養は必要です！もっと保養の機会があったらいいと思います。震災時2才だった息子は、今でも砂遊びや土いじりは「手が汚れるから」と言ってあまりやりたがりません。
- ・保養も他県は補助金や無料もあってすごく気にしてくれている。福島や市はあまりないように思う。
- ・保養やリフレッシュできる機会は必要だと感じています。ただ、5年も経つとどんどん継続は難しくなっているのは間違いないと思います。風化しつつありますし。いまの小さい子供たちが自立するまで続けてくれるのを願うばかりです。個人で行くにはとても生活していくのが大変です。

条件に合うものがない・仕事で行けない

- ・過剰に支援を受けようとする人を見ると腹が立つ。保養などもりピートの人ばかりが行くようになっていて、そういう人達は自分達に得な情報を外へもらさないようにしている。保養を行う側の企業ももっと広く公募するべきだと思う。保養の目的が当初と違っているのが見え見えで冷める。
- ・子供には夏・冬・春の長期休みがありますが、それに合わせて親が長い休みを取ることがむずかしく保養キャンプ等には参加できていません。子供はひとりっ子なのもあり、知らない人ばかりの保養に子供だけの参加は希望しないため、短期に近場へ行くにとどまっています。

費用

- ・何も公的な支援がないまま、民間の支援者の方々の保養プランにお世話になっています。年々支援者の方々も資金ぐりが苦しくなり、先が見通せないと困っていらっしゃいました。支援者の方々ばかりでなく、当事者の方々が声をあげないと進まないとの声もきかれました。年々、保養の企画も少なくなり、経済的においこまれているのだと感じています。自身も経済的に苦しい中で保養にできる限り参加しているので支援が少なくなればなるほど保養に行くことができなくなってしまいます。
- ・簡単に保養にも出られなくなり、自力で出るためには経済的にもきつくなりました。子供も、その意味を考えられなくなり、素直にしたがっているだけではありません。

イ 保養に関する情報を得たい

- ・「保養」という言葉も知らない人が多い。いろんな団体でいろんな場所で保養が行われているが、知らない人が多いので、教えてあげると喜ばれる。
- ・福島県民を対象とした保養がたくさんあるが、抽選であったり、知っている人、調べた人にしか分からないものが多いので、誰でも分かるよう

に、みんなが参加できるような気軽に参加できる保養を増やしてほしい。

- ・平日も仕事のため、長期休業中も保養等に行けない。唯一あった週末保養も小学生～行けなくなった。保養の数もぐんと減り、リピーターのみや希望者も多く参加できるものがほとんどない。

ウ 保養に満足した

保養を利用して、知り合いが増えた、気持ちが楽になった、という声が聞かれた。

- ・保養の関係で、他県でも知り合いがずいぶん増えました。そして、同じ考え方の人とつながりが多くなりました。そういった部分では、ものすごくありがたいなと思っています。
- ・長い休みなどは子供だけで保養に行かせております。冬休みは沖縄に1週間行ってきました。NPO 法人が良くして下さるのでありがたいです。
- ・時々、保養旅行が当たるのが楽しみ。
- ・今でも放射能の影響を心配し、保養に誘ってくれている団体があり、年に2回出かけている。そのため色々な話も出来、だいぶ気持ちが楽になっていると思う。

エ 特徴

保養に関する意見の総数は19件(2015年)から30件(2016年)に増加した。「ア 保養プログラムの拡充を望む」に関する意見は、6件(2015年)から18件(2016年)に増加し、原発事故から5年が経過し、次第に減りつつある保養プログラムの継続と拡充を望む意見がある。「イ 保養に関する情報を得たい」に関する意見は、4件(2015年)から2件(2016年)に減少しているが、条件に見合う保養の情報が得られないという意見があった。また「ウ 保養に満足した」に関する意見は9件(2015年)から10件(2016年)とわずかに増加した。

(3) 除染関係

除染に関する意見は、①「除染にある程度満足している」、②「除染に不満がある、除染の効果に疑問がある」、③「除染を望む」の3つに分けられる。

ア 除染にある程度満足している

自宅周辺の除染が進み、子どもを外で遊ばせることに不安を感じなくなった、安心して暮らせるようになったと感じている方もおられる。

外遊びの不安がなくなった

- ・原発事故から、まもなく5年……。月日が経つのは早いですね。私の住んでいる町は、除染も終わり、今は安心して外で遊ばせることができます。
- ・除染も進み子供達を外で遊んでも以前のように気にする事はほとんどなくなった。
- ・家や庭の除染作業をやってもらい、安心したところです。外遊びは何の心配もないのですが、やはり地元の食材はまだまだ不安です。

生活が戻った、気持ちが安らいだ

- ・だいふ、元の生活に戻ってきました。外でするスポーツも、積極的に行っても、なにも不安に思うことはなくなりました。市では、早い除染に取り組み、私の住んでいるところは、とても住みやすいかんきょうになってきました。
- ・除染がようやく終了し幾分かホッとしております。
- ・まもなく、5年になりますが、今では事故の話は、ほとんどしなくなった様な気がします。家の周囲では、除染が行なわれ、気持的に少し安心というか、ほっとしました。
- ・自宅の除染も終わり、やっとここまで来たという思いです。震災前と変わらない生活をしており、放射線のことあまり気にしなくなりました。

- ・家の除染も終わり、原発事故の事もあまり話しをする事がなくなってきました。
- ・5年がたって、放射能の汚染状況が改善されたと感じています。自然低減に加え、住宅や道路の除染が済み、より安心して暮らせます。

イ 除染に不満がある、除染の効果に疑問がある

除染が実施されたものの、汚染土が庭先に埋められるなど除染の処理方法や作業のずさんさに不安や不満を感じる声が出ている。具体的には、汚染土が子どもたちの通学路や遊び場に置かれているので心配だという意見、作業がいかげんであるため、安全性や効果を心配する意見がある。さらに除染作業が進むにつれて、県外から来た除染作業員の出入りによって、軽犯罪による治安の低下に不安を感じる声が聞かれる。原発事故から5年が経った今ごろの除染に効果が期待できないという意見、すべての場所で除染されていないので効果が期待できないという意見も聞かれた。

汚染土の処理の不满、除染のやりかたに不满

- ・我が家は2年前に除染作業が済んでいます。しかし、道路をはさんだ反対側は現在行われているようです。この近距離で、時期がこれ程に違うのはなぜか、疑問です。
- ・今でも庭には、除染で出た袋がうめられたまま。なぜかその上だけは、雑草も生えず、気持ちは良い物でもありませんね。
- ・H26年秋に除染を行ったのですが、今まで育ててきた草花がすっかり取り除かれ、1年以上、庭仕事をする気になれず、気分が落ち込みました。今でも庭の汚染物質を埋めた印の杭を見ると、複雑な気分になります。
- ・落ち着いた生活ができている反面、除染土が近くの公園に埋められたり、子供を安心してあそばせられる場が失われているのが悲しいです。最終的にその土はどこへ？
- ・福島市内では今でも毎日除染作業があちこちで実施されています。自宅でも除染作業が終了し、測定結果をもらいました。線量が下がっている

ものの除染で出た汚染物を自宅の庭に埋めており、本当に大丈夫なのかどうか…。近くでも黒い袋が高く積み上げられているのを見ると避けて通りたくなります。（汚染物）

除染の場所

- ・家の土地の除染はしたが、家の目の前にある池は手つかずのまま、早く何とかしてほしい。
- ・家の周りの除染はしましたが、その除染したものが家の庭にうめられている。子供たちが遊ぶとしたら、自宅の庭なので、その場所の上で遊んでいます。外の物置の辺りが少し高い線量がある場所があるけど、そこを除染すると物置が傾いたりすることがあると言われ、結局その場所はそのままだしました。
- ・近所の空き家の放射線の線量が高く、とっても不安です。本宮市に言っても、空き家の除染がなかなかむずかしく、家（自宅）は除染してもなんの効果もありません。とっても残念です。
- ・山林に囲まれて暮らして居ます。家の回りは除染されましたが、山林は手付かずのままです。不安な状態が続いています。除染の予定はありません。精神的苦痛を感じながら今に至ります。
- ・私の住んでいる地域でも、昨年夏頃から、住宅の除染が行われるようになりました。環境放射線量は震災後と比べると低くなってきてはいますが、通学路や田畑、山などはまだ何も実施されておらずやはり心配になってしまいます。
- ・震災直後にイメージしていた5年後ほど復興していない。特に除染に関しては「とりあえずやった」みたいな感じで、実際に放射線量は下げ止まりのようで0.1~0.2マイクロシーベルトから低くならないし、雨や雪の影響で側溝などはまた高い場所がある。山林などは除染されていない為に遠足などで郊外に行っても以前のように思いきり遊べない。

除染作業員への不安

- ・除染作業にたずさわる方々の一部で良くないことのウワサもあり、小さ

い子供をもつ親としては治安が心配で、子どもだけでは決して遊びに行かせられません。

- ・住居近くには除染作業員の宿舎もあり、逮捕された作業員もいて治安に不安も感じる。除染車両の通過台数は増えて、道路はボコボコになるし、道路にはゴミのポイ捨てが目立つようになった。
- ・きつとまじめに作業してる人もたくさんいます。でも、大きなお金を目当てに、全国から心ない人達が福島に集まっています。知っていますか？毎日の様に新聞にのる除染作業員の犯罪。福島はもうスラム街です。国はもっと他に目を向けてほしい。ここ福島に残る人達の事、もっと考えてほしい。もっと弱者を見てほしい。新聞にのらないひどい犯罪もたくさんたくさんある！
- ・除染作業員によっては空巢被害のようなものもあるようです。不安は枝分かれしていろいろ増えているのかもしれない。

除染が遅すぎて、今さら効果が期待できない

- ・私の住んでいる地域は低線量であるといわれていますが、昨年12月にやっと1回目の除染が終わりました。小さい子どもがいるのに除染が5年後とは何をきれいにしたのかわかりません。もう2回目のところもたくさんあるというのに一体何にお金を使っているのかわからない。
- ・我が家の除染も済んだ。もちろんやってもらいよかったと思う反面、今更遅いと思う部分もある。子供たちはもちろん、自分たちの健康被害がなければ、よかった、で済むが、まだ答えが出ないことなのでまだまだこれからなのかもしれないと思った。
- ・私の地域では今、住宅の除染をしています。高いところから始まったので仕方がないのですが、5年経って今更という気がします。自分達で何度か洗い流したので多少低くなっていますが、市でもいろいろと決まりがあり、除染といっても雨どいと土面とこちらの希望とは異なり、なんのための除染なのかと思います。
- ・郡山は今も盛んに道路など除染している。しかし今ごろ土を取ったりし

て意味あるのだろうか？遅いのでは？

- ・ 去年の夏、やっと我家の除染が終わりました。小さな庭の表土をけずり、小さな庭に埋めました。コンクリートを洗って終了です。4年以上も経ってから順番がやっと回ってきたのです。今、やってもほとんど意味がありません。当時2才の子がもう小1になっているのですから。直後にやっ
てほしかったです。
- ・ 除染では、大玉村は事故一年後くらいに各家々を除染しました。私の職場は隣の市になりますが、今やっと除染しているところです。今頃、除染をして、何の意味があるのでしょうか？5年近く経ってからの除染ということと、除染作業員に何かされるのではないかという恐れから希望しない人も多くなっているようです。除染は効果があるのか全く分かりません。

除染作業の質に不安

- ・ もう除染が終了してしまうのか？
- ・ 除染は済みましたが線量はほとんど変わりませんでした。
- ・ 除染していると言っても上辺だけで、実際はやってないのとはほぼ同じだし、家のすぐ隣は落ち葉が積もって今でも高い放射能だと思いとガッカリします。
- ・ 側溝など公道の除染をしているが本当に効果があるのか疑問。
- ・ 家の除染をしてもらったが、すごくずさんな作業に感じた。
- ・ 除染作業は、ずっと続いています、どちらかというみんな家の「掃除をしてもらっている」といった感覚です。
- ・ 国はお金の使い方をまちがっていませんか？昨年の大雨でのフレコンバックの流出。回収できない物は回収しないって。中身は影響ない物だから・・・。何のために除染しているんでしょうか？もう5年。今さら住宅除染？今までにどれくらいが体中に入ってますか？何のために大金を出して除染をしますか？

除染後も不安が残る

- ・ 通勤途中に除染廃棄物の一時仮置場があり、健康への影響が気になっている。自主的に定期的に検診しなければならないと思っている。
- ・ 今現在も除染作業を身近で行っており、実家の庭に置かれた汚染物質の黒いかたまりを見る度、不安を感じます。
- ・ 5年たったというのに、庭にはまだ除染した土が埋まっているし、線量もそれ以上下がらない。除染は、終わったというが、全ての場所が安心とは言えず、それがこれから私達にどういう影響を与えるのか不安である。
- ・ あちこちで除染作業をしている様子を見るが、実際に線量が下がっているのかわからない。下げ止まりがあるのではないかと思う。
- ・ 除染も進み、以前よりも安心して生活ができるようになりました。しかし、公園や草むらなどで、子供たちが落ちている物など（木の実など）をさわったり、拾ったりするとやはり心配で、“ダメ”と言ってしまいます。子供たちには何でも興味を持って、伸びのびと生活してほしいのですが、思いと行動が逆になってしまい、悲しいです。5年たっても心配な気持ちは変わりません。
- ・ 自宅の除染が最近ようやく終了しました。除染ででた物が自宅の庭に保管してあります。いつまで保管するのか不明です。子供には近づかないように話してありますが、興味を持てば近づくのは目に見えます。安全、安心な生活はいつになるのでしょうか？

ウ 除染を望む

ある地域は除染が済んでいるが、まだ除染が進んでいない地域もある。また、再度、除染してほしいという意見もある。

除染の順番がまわってこない

- ・ 福島県の広範囲の除染をもっともっと進めてほしい。
- ・ 除染がぜんぜん進んでいないように感じます。原発から少し遠いとあと

まわし、それもどうなのかなと感じています。

- ・震災から5年が経とうとしているのに、未だに私達が住む地域は除染作業がされていません。線量が低いからと後回しにされていますが、地域の中には線量の高い場所もあります。市内で1番児童の多い地域なのに行政の対応には納得できません。
- ・線量にはまだ高いところも多いですが、我が家には除染はまだ来ていません。

除染してもらえない

- ・私の住んでいる伊達市は、やはり全面除染はない様です。我が家もどうして元にもどすだけなのにそれをやってくれないのだろうと思っていましたが、今は誰かがやってくれるという受け身ではなく、自分で動くかと思えてきた所です。実際に今、EMを庭にまいて、どれくらいまで下がるのか実験中です。
- ・周囲の市町村は住宅の除染をしているのに、伊達市はしてもらえないのが悲しい

除染していないところがある

- ・現在私の住んでいる所は、除染しているところとしてないところがあります。除染していないところがわかりにくく心配もあります。
- ・うしろの山の除染をしてほしい。通学路もしてほしい。
- ・山林除染を早くやってほしい。まだ何もされてない。山の中に住んでいるから、常に子どもたちの健康が心配。不安。

再度除染してほしい

- ・年月の経った今現在の除染はあまり効果がないと言われていますが、少しでも効果があるのであれば、家や近所も再度行ってほしいです。

エ 特徴

「ア 除染にある程度満足している」に関する意見は、28件（2015年）から21件（2016年）に減少し、「イ 除染に不満がある、除染の効果に

疑問がある」に関する意見も、93件（2015年）から90件（2016年）に減少した。また、「ウ 除染を望む」に関する意見も、32件（2015年）から18件（2016年）に大幅に減少した。

3 食生活

食に関する意見は、①「地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」、②「地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている」、③「学校（保育園）給食に対する不満」の3つに分けられる。

(1) 地元産の食材や水道水はできるだけ使わない

食に関しては、2015年の調査より意見が増え、放射能の影響を心配して食材の生産地を選んで購入するという意見は変わらずにある。

食材の生産地を選んでいる

- ・この5年の間に、娘が生まれ家族が増えました。福島から離れるつもりはありませんが、子ども達の将来の為、食料や水など今後も口に入れる物ではできる範囲で気を付けていきたいと思っています。昨年の夏には、2週間程遠方の親戚の家へ遊びに行ったりしました。線量のことを気にせず思いきり遊べる機会も増やしていきたいと思っています。
- ・今もあちこちで除染をしています。本当に除染を行って下さる方々に感謝しています。以前より食材も地元産を使う人が増えていますが、私はやはり買うのをためらっています。すっかりこの生活に慣れてしまっ、誰も放射能の話をする事は無くなったように思います。「除染終わった？」があいさつのような感じです。子どもたちが外で遊ばないのは、放射能ではなく、ゲームや習い事などのためだと思っています。幼稚園では外でおもいきり遊ばせています。放射能を気にする方はすっかり県外へ行かれたので、まわりはもめることもなくスムーズだと感じます。しかし何年たってもずっと残るこの「こと」は、本当にやるせないのです。

食費の負担

- ・震災から、まもなく5年となりますが、以前に比べて、放射線のことなど、考えなくなりました。外遊びも普通にさせますし、地元産の食材も食べています。水は震災後より購入しておりますので、出費はかさみますが、5年もこのような生活をしているので、慣れてしまいました。ひとつだけ言いたいのは、自主避難者に手厚くするのではなく福島に残っている人達に手厚い補償をして頂きたいと思っております。

地元食材に抵抗を感じる

- ・まわりを見ても原発に対して意識がうすれてきているように感じる。・しかし、原発事故は、未だに解決していなく、食や地域の汚染はどうか、いまいち分かっていない。地域を除染をしているが、原発が解決していない限り、少なからず汚染。政治はいつもウソばかりつくので、何を信用してよいのか分からない。・原発事故後、水を購入するようになり、少なからず、福島県産の食材を意識的にさけてしまう傾向があります。
- ・風化しつつも、子供の将来を考えると、食べ物には気をつかう。せっかく頂ける米があっても子供には他県のものを買う。水も買ったものを使う。分けてごはんを作ることもある。自分だけが考えすぎているようにも感じるが、学校で地元の食材を使っている限り、家で食べる物だけは安全にしてあげたい。甲状腺検査のアンケートで、1週間でどのくらい魚を食べるかと聞かれるのに、近くでとれる魚には信用ができない。

(2) 地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている

逆に県内産を使うようになったという声も2015年調査よりわずかに増えている。検査していることへの安心が増し、抵抗感が減ったと考えられる。また経済的な理由で、地元産を購入せざるを得ないという意見もあった。

線量が下がったので信頼している

- ・まだ5年、もう5年 そんな心境です。震災後、避難して2年後にまた福島へ戻ってきました。福島産の野菜や米は、食べないようにしたり、外遊びに抵抗を感じたり、戻ってきた直後は、いろいろ気を使っていたんですが、今は空間線量もだいぶ下がり、大手スーパーなら、信頼できるかな・・・と福島産のものを購入したり、外遊びは全く心配しなくなりました。ただ、10年後、20年後のことが、不安になってきています。子供達が、病気にならないでこのまま元気でいてくれることを願うばかりです。夫は転職するわけにもいかず、福島に戻ってきましたが、できるなら安心安全な土地へ永住したいと、思っています。

検査しているので安心している

- ・普段の生活ではあまり気にする事もなくなったが、未だに子供を外で遊ばせる事はほとんどない。食べ物ももらい物は町の検査を受けてから食べている。
- ・食べ物は、きちんと検査されていれば福島県産を食べています。おじいちゃんの畑で芋ほりをして、それを食べたりと良い経験を積む事もできるようになりました。きちんと検査すれば大丈夫だと私の意識も変わってきました。
- ・福島県に住んでいること、地元の食材を使うことにほとんど不安を感じません。気にならなくなりました。全て検査されているものなので、逆に安心感もありますね。

地元を盛り上げたい

- ・福島の食べ物はおいしいです。だから子供達にこの地の食べ物はおいしいんだよ、ありがたくいただきますよねと教えて、福島の食べ物をたべています。本当においしいから食べさせていますが、将来何かあったらな…など今も感じますし、どうなるかわからない未来に不安もあります。

抵抗を感じなくなった

- ・ あっという間に5年がたってしまいました。最初はこれから先どういう風になるのか心配でしたが、今は食材などきにしないで食べられる様になってきました。
- ・ 最近では外遊びも気にすることなく、行っています。食べ物もきのこや魚は気になってしまいますが、野菜、米などは県内産のものを食べています。
- ・ 震災や原発事故私自身も風化しつつあると感じています。職場でも避難していながら、働いている方の話等聞く事もあります。その会話の中でも、お金の話がほとんどで、実際、自宅には戻らない方の方が多いと感じています。今の生活の方が充実している様です。職場でも、格差を感じずはいられないところです。今、現在は、子供達に好きな様に外で遊ばせ、災害後1年間は、家庭菜園もあまり食べませんでした。今は、何でも食べさせています。ほぼ、震災前の生活に戻りつつあります。心配な事は健康面だけです。
- ・ H27.3月第3子が妊娠34週と早産で誕生。その後順調に成長し、身長、体重標準になり、にぎやかな毎日を過ごしております。ミルクの水などは、サーバーですか、離乳食などは大人と同じ水道水で作っています。

金銭的な理由

- ・ 私の住む地域は、今やっと除染をしています。もう5年たつのに、もっと早くやってもらいたかった・・・。野菜や果物、米など福島産を食べるようになりました。高い県外産を買うことが経済的にかなり負担になっていた為です。

(3) 給食

給食に関する意見も見られ、福島県内産の食材を給食に導入する動きに不安や違和感を訴える声があった。

- ・ 以前に比べると、いろんなことに敏感でなくなってきたような気がしま

す。一番は食べ物ですが、飲み水と米だけは北海道産を続けていますが、野菜や魚などはなかなか手に入れるのも大変で、疲れてきました。料理も、手に入れられた食材で作るので、いつも同じ。魚なんて、どこの魚食べても安全じゃない気がするけど、肉ばかりじゃ、体に悪い。放射能と栄養、どちらを気にして選んでいいのかわからない。給食も地元の原料。大丈夫なのか…？正直、常に食事については迷いがあって自信がないです。

- ・給食に福島県産を使って←（地産地消とか本当にやめてほしい。）「安全アピール」やめてほしいです。多分、思っているよりは入っていないのかもしれませんが「10ベクレル/kg以下」は不検出扱いで9ベクレル入っているかもしれないなら子供に与えるべきではないと思う。（「より安全」で考えてほしい。）少しずつ自分も気にしなくてはなってきたけど将来、子供に何かあるかも、という不安は一生消えないでしょう。
- ・未だに、福島県産の農産物は買いません。農協のお店に全く行かなくなりました。→いくら私が福島産を避けていても、学校給食では、積極的に福島のものを使っているの、意味がありません。地元の農家の方々のためでしょうが、まず子供たちに食べさせるなんて…。しかも、毎日継続して食べるので恐ろしいです。でも、一応検査済みのものではありません。主人が仕事でしょっちゅう原発内に入るので、とても怖く心配です。毎日原発内で作業をする人たちやその家族はもっと心労がたまっていると思います。
- ・小学校の給食では、ほとんど県内産のものなので、不安になります。

(4) 特徴

「ア 地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」に関する意見は、20件（2015年）から31件（2016年）に増加。「イ 地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている」に関する意見は21件（2015年）から22件（2016年）とわずかに増加した。「ウ 給食」に関する意見は3

件（2015年）から9件（2016年）に増加している。

4 家計負担増加

家計負担増加に関しては、①「他県産の食材・水の購入費用」、②「外遊びの代わり」、③「その他」の3つに分けられる。

(1) 他県産の食材・水の購入費用

他県産の食材や水の購入費用に関して、次のような意見があった。

- ・震災後より、水を買って飲むようになり、その他にも何かと少し多めに買うくせがつき、お金がかかるようになりました。ガソリンも、いつなくなるか分からない心配で常に満タンに近いくらい入れるようにしています。東電からの支払いは、私達（避難者ではない）はもらえる額が違うので、たまに不利だと感じることもあります。
- ・今でも、みそ汁やお米の水は水道水を使うのが怖い。ペットボトルの水を使用している。
- ・県外産の野菜や魚、肉（米、くだもの）などを使用しているので食費が大変です。
- ・買い物してもやはり不安がぬぐいきれずに、県外産に手が伸びます。水道水も未だにあまり使わず、ミネラルウォーターの生活です。経済的に困難な部分ではありますが、子供達の今ではなく将来的な事を考えると、負担よりも安全を優先する自分がいます。出来れば県外に住んで生活したい気持ちもありますが、経済的にも無理な話で、現実的に留まるしかないのかと自問自答の毎日です。

(2) 外遊びの代わり

外遊びを制限する代わりに保養や体験にでかけることで、出費が増加したという意見もある。

- ・いつまで保養を続けたら良いのか、身体もお金も気持ちもツライ。自分

自身も不調だが、最低でも月2回は県外に出掛けないと、と思いプレッシャー。

- ・保養は、まだ当分続けてやっていきたいと思っていますが、上の子2人が中学生でまるまる大人料金、やはり金銭的にはすごく厳しいです。食料品とかも時々、とりよせしたりするのでその辺りは、送料など負担もあります。
- ・外遊びは不安なので、室内の遊技場でお金を払って遊ばせる、運動不足になりがちなので、室内のスポーツの習い事をさせる、時間やお金よりも、連休があるたびに、県外の実家に帰る、などして、家計にひびく(出費が増える)ことがいろいろあります。
- ・長期休暇中に、保養で他県に行く事がありますが、無料のプランが減ってきた為、自己負担での出費が多くなりました。大丈夫とは言われてますが、今でも水や食材は他県の物を購入している為、家計にゆとりがありません。
- ・年々、子供たちがリフレッシュするための助成も減り、無くなり、お金の補償も私たちの地域にはありません。せめて、子供たちがリフレッシュするための助成(旅行プランやバスの貸し出し(幼稚園や学校等へ))をこの先もずっと続けてもらいたいと私たち地域の人たちは皆思っています。

(3) その他

その他、事故後に増加した費用として、避難・二重生活にお金がかかる、住宅費用が高む、税金や公共料金、子どもの為の保険料などの意見があった。

避難・二重生活の費用

- ・南相馬市原町区から震災後に現在住んでいる三春町に引っ越してもうすぐ5年、子ども達も幼保から小学生になり子育ても少しは手がかからなくなってきました。主人の仕事場も震災の1-2年は勤務地が変わった

りして落ち着かず2重生活で費用もかかってなかなか子ども達にも会えずさびしい時間がありましたが、今は、三春町から近い郡山に勤務地になったのでとてもありがたいです。

- ・まもなく震災から5年ですが、思い出すと、つらかったことがたくさんあり、やはり忘れられません。今でも、よく大変だったことを語り合います。一時避難した山形県(のこと)や、心配で何度も放射線量を計り、ハラハラとしていました。金銭面でも、いろいろかかりました。子供を心配して、布団を全部買いかえたり、カーテンをなまり入りの特別なカーテンをつけている友人もいました。私は畑もやっていたので、野菜など食べられない土になってしまい泣きました。何より、公園で子供を遊ばせられなかったのは一番つらかった、もう二度と嫌です。福島はやられ損でしかありません。
- ・主人には転職をしてもらったり、新しく家財をそろえて引越したりとお金の面での差が多く、震災がなかったら、きっと今頃はマイホームなどを持って普通に福島で生活していたのではないかと思うと、辛くなります。この5年でのお金の出費が多く、早く貯蓄を増やして安定して生活したいのが現状です。

住宅費用

- ・アパート住まいで、これから家と土地を買おうと思っても、需要が多く、値上がりもあり、ふみ出せないのが現状です。
- ・年収400~600万ですが、実家をリフォームして住んでいましたが、地震で家のかべにきれつが入り、そこから放射能が入り、その部屋だけでも3.0 μ Sv/毎時あります。いくら家を直しても、下がることもなく、まだ小さい子供も居た為、福島市から伊達市に移り家を建てました。しかし補償があるわけでもなく、リフォーム代と家のローン2重で払っています。ただの地震だけなら、苦しくもなかったはずなのに、原発事故のせいで大変な生活をしています。

租税・公共料金

- ・福島市は震災があったのに、他の市町村に比べて水道代、ガソリン代など、生活にかかせない出費が多い。
- ・震災前と比べて、市県民税等の金額が日に日に多くなっている気がします。原発付近と同様に福島市もじゅうぶん同じ被害にあっているのに、どうしても比較してしまいます。

保険

- ・子供のがん保険も入りました。将来、子供達が健康でいられますように。
- ・がん保険に加入してから、2年。子供3人保険に加入していますが、現在2か月分の支払いたまっています。家族5人の生命保険+子供3人のがん保険。主人がけがをしても支払対象にもならず、仕事も2週間できず、給料も最悪。保険貧乏！（払い続けて、子供にがんが見つかった時、はたしてどれだけの保険がつかえるのか？）

5 子育て

(1) 放射能対応（行動）

放射能に対処するための行動として、外遊びの制限、送迎、室内遊び場の利用についての意見が多くみられた。子どもの外遊びについて消極的な理由に、線量が依然高く安心して遊ばせる場所がないことや健康への悪影響が心配されるためである。同時に、外遊びしないことによる子どもへの体力面、精神面での影響を心配する声も多い。学校で外遊びを制限することへの疑問の声もあった。一方、不安を抱えながらも外遊びをさせているという意見もあった。室内遊び場に対する要望や不満がある一方、室内遊び場ができて良かったという意見もある。

外遊びを制限している

- ・5年経ったので、だいぶ普通の生活をしてしていますが、外の土をいじらせたりなどは子どもにあまりさせたくありません。放射能に対する不安はずっとあります。

- ・まだまだ放射線量の高いところはたくさんあります。なので、まだ安心しては子供を外であそばせる事が出来ないと思います。
- ・今も道、山、川には、放射能がついているのに、みんな忘れて子どもを遊ばせている。私はゼツタイにムリ。かなり神経質になってしまった自分がある、草もさわらせてあげられない。でもお金がかかるから、この場所からはできない。のびのび外であそべない子どもがかわいそう。昔よりは、はるかに放射能がとんでいるのに、学校でも窓をあけ、外であそばせ、木の実であそばせることに不安でいっぱい。
- ・自分はいいいですが、子どもには外遊び時に土や草をさわったりするのは今でもやめさせています。
- ・屋外で遊ぶのには未だに抵抗を感じます。砂遊びや落葉ひろい、虫取りなどは絶対にさせません。屋外の遊具も、除染しているわけではなくで、すべり台、ブランコで遊ばせたくないです。

外遊びできない影響（体力面）が心配

- ・子供たちの運動不足が気になります。いまだに公園の除染作業が行われていて、思うように外あそびができず、大変不便です。娘は軽いアトピーで、時々病院に行っていますが、昨年夏『アトピーの子には海水がいいから海に行ってみてネ。でも、いわきの海は何が流れてくるかわからないからやめてネ』と先生に言われ、かなりおどろきました。結局、どこの海にも行くことはなかったのですが、福島海、太平洋側の海の心配はかなり大きくなりました。
- ・子どもは小学生になり、体が強くなってきたと感じるが、体力がないように感じる。特に腕や脚の筋力がないのか、キャッチボールやなわとびが苦手なところが気になる。2~3歳の頃、ほとんど外で体を動かさなかったことが影響しているのでは？と心配になる。もっと運動させなくては、と不安になることがある。

外遊びできない影響（精神面）が心配

- ・大震災の時、娘が2才で一番色々な事に興味を持ち外で思いきり遊ばせ

てあげたい時期に外に出ることができず、室内遊びばかりになってしまい、あれもダメこれもダメー！！と制限してしまい、子供にとってはものすごくストレスだったかと思います。現在は弟ができてちょうど同じ2才なのですが、外遊びできる環境や室内でもペップキッズ等の施設が使える事で大きな差を感じます。娘にももっと色々な体験をさせてあげたかったと悔しい気持ちです。

- ・子供たちは室内で遊ぶことが多いのでゲームで遊ぶ子供が多くなり体力が落ちている。体力の低下が心配なので、スポーツクラブに入れているが、経済的負担がある。又、子供同志で遊ぶ時間が、それぞれの習い事のせいで、土・日しか予定が合わなかったりという弊害もある。小さいことではあるが、それが、ずっと続くとなると子供の心の成長は大丈夫か？と不安になる。

肥満

- ・娘も小学校に入学し、外遊びや屋外活動についても震災以前と特に変わらないような環境で過ごしています。放射線量は、特に気になりません。ただ、全体的にみて子供たちの運動不足、肥満傾向、ゲームの利用増加が問題だと感じております。

送迎

- ・やっと地域の道路や下水道の除染が始まりました。ただ、まだ心配のため、子供達の登下校の送迎を車でしています。

保育所・学校での制限に疑問

- ・息子が保育所に通っていた時のことです。年中組のとき（2年前）、朝登園するときキレイな落ち葉を見つけ息子は拾って保育所に持っていきました。担任の先生に見せキレイだねなどの会話はあったものの、教室の中に持ち込むことは禁止です。年長組ではきゅうりやなすを育てました。しかし観賞のみです。できた野菜（自分たちで育てた）を使った料理を食べることはできません。だんごさしの行事、本物の枝ではなく画用紙を利用。事故前にはきっと当たり前に行われていたことができな

かったのです。そこまでかと私自身ショックを受けました。落葉をみんなでさわって観察したり、自分たちで育てた野菜を食べたり、保育所の活動の中でやってきたことができなくなってしまった。本人たちは理解してないことも多いですが、子供たちを守るため、保育所の判断、方針についてももちろん文句はありません。ただ悲しさを感じました。こんな小さな事もあるんです。他県の方にも分かってほしいと思います。

外遊びさせているが不安

- ・子供達はどんどん大きくなっていますが、年々甲状腺ガンが増えているなど気がかりなことがあります。しかし子供が外で楽しそうに遊ぶことはやめさせられません。
- ・福島で子育てをすることへの不安は常にあります。外遊びをしても子どもたちが土にさわると不安を感じたり、イライラしてしまうことがあります。このようなふつうのことにも過剰に反応してしまうことは子育てによくないと思ってもやはり心配です。自分たちの将来のこと、子どもの将来のこと、心配はたくさんありますが、ここで生活する他に、生活するすべがありません。「ここに住むことはまちがっているのではないか、子どもに申し訳ない」という思いをもちながら生活しております。自宅の除染もまだ行われておりません。福島の子たちが、健康でのびのびと育つことを願ってやみません。
- ・福島に住んでいると、もう全く放射能の事を気にしてる様子の風景はみられません。学校・幼稚園みな福島産の物を使うし、外遊びの制限もなくなり、落ち葉、どんぐり、砂遊びもしています。喜んで学校や幼稚園で拾った物で作った作品や、課外授業で地元の農家でりんご狩りをした、野菜を収穫したなど聞くと、ガッカリします。
- ・子ども達は外遊びをする様になってきましたが、全て線量が低く安全になっているわけではないと思うので（空地など）心配な所もあります。
- ・原発直後よりも、放射能の事は考え、悩むことが少なくなってきました。本宮市はほぼ除染も終わりましたが、まだ線量が高い場所がいくつもあ

ると思います。1才になった娘とよく散歩に出かけますが、興味がある物に何でも触ってしまうので、今になっても複雑な想いです。

室内遊び場

- ・今年から助成金が無くなるそうで、小学校でのイベントがほとんど無くなります。小5の娘は、小学校に上がる年に原発事故に合い、1学期長そで、長ズボン、マスクで登校でした。まだ学校生活は残っているのに、原発の問題も、解決していないのに勝手に助成金がなくなるのはなぜでしょう。小1の娘は、原発後、外で自由に遊べなくて不自由だからと「こどものにわ」という、クッシー先生の放課後クラブに通い、福島県以外の土を使い、子供に土遊びをさせてくれたり、とてもステキな場所に通っていました。それも、今年から助成金がおりなくて3月いっぱい放課後クラブもなくなります。放射能そくていきは無くならず、校庭にあるままなのに、子供の遊び場だけが、どんどんなくなるのは、おかしいと思うのですが、仕方ないと思う大人が多いのも事実です。
- ・子供の為に遊ぶ場所がもう少し欲しい。室内や外でも、小学生くらいの少し大きくなった子向けにも考えて欲しい。やはり健康の影響が心配です。外や体を動かす事やそのような場所を考える様にしています。
- ・福島にもっと室内の遊び場がほしいです。

特徴

子どもの成長とともに、外遊びの制限をするという意見は減ってきている。しかし放射能の影響が気がかりで不安だという声は依然として多く、複雑な心境が伺える。

(2) 放射能対応 (検査)

放射能に対処するための検査に関する意見は、①「子どもの検査」、②「積算計 (ガラスバッジ)」の2つに分けられる。

ア 子どもの検査

子どもの検査については、検査の継続を希望する意見や原発事故との関連性がないという説明に不信感を持つ意見もみられた。また甲状腺検査の結果から不安を感じるという声もあった。

面倒だ・負担だ

- ・子供がどんどん大きくなって、どう説明すれば良いのか、2年ごとに検査をする事で、ストレスにならないか、一生の傷を負わせてしまったと、事故後すぐに県外に出なかった事を本当に後悔しています。
- ・線量が低いので心配ないと言いながら除染やガラスバッチ、ホールボディカウンターなどの事業を淡々と続けている行政に違和感を感じる。親として、それらの検査を子供に受けさせる義務があると思い、全て受けているが、そのために仕事の休みをとらなければならないなど、負担が大きい。

検査の継続

- ・原発の事が人々の中でかなり風化しているように思われる。ホールボディカウンターなどの検査も「もう大丈夫だから」と自分で考え、受けに行く人が少なくなった。熱心なのは、小さい子供を持つ母親ぐらいだと感じる。これから先、何年後に影響がでてくるかわからないので、福島は実験台だからと言われても検査はやり続けてほしいと思う。今後、また起こらないと言い切れない事故なのだから。
- ・だんだんと風化が進み、私自身も放射能に関しての意識は薄れてきたように感じます。ただ子供たちの将来の健康被害はとても心配しているので、引き続き健康診断や甲状腺検査は無償でお願いしたい。

検査の結果について

- ・現在、子ども達の健康状態に変化はないようです。が、将来、原発事故の影響による体調の変化があるかもしれないと思うと心配です。この不安は、死ぬまで消える事はないです。継続して検査を受け、少しでも不安が解消できれば良いです。「お母さんが、ため息をつくと、家の空気

が重く暗くなる。」と子ども達に言われたので、毎日楽しく笑顔で過ごせるようにしたいです。

甲状腺検査結果から

- ・子どもたちの健康については親として心配しております。自分の息子も、うほう有の診断をうけており、近所にも甲状腺ガンの疑いの子がおります。
- ・震災の時、子供が小さかったので、将来影響があるのではないかと不安な気持ちが今でもあります。忘れる事もありますが、「甲状腺検査」の結果が送られてくるたびに、本当に大丈夫なのか・・・と思う事もあります。県民健康調査の結果もあいまいな為、どこまで信じたら良いのかと思います。
- ・子供が心配。うほうなし→うほう有になったり大丈夫なのか。
- ・去年の3月に2回めの甲状腺の検査をしました。前はあつという間におわり、(A1)判定で安心していましたが、去年は(A2)判定で次回かならず視診(受診)するように手紙にかいてありました。弟も一緒に受けたのですが、弟はあつという間に検査が終わり、兄は長い間検査をしていたので、「もしや」と心配していました。心配があたりA2判定、どうなのかといきつけの小児科や医大の先生に聞いてました。他の人には聞けず、こういった方はけっこういるのでしょうか？(2回めにA2判定でた人)将来ある子、ものすごく心配です。
- ・子どもの甲状腺がんのことが一番心配です。いつも「A2」の判定なのですが、今後、どうなっていくのか。甲状腺がんの子どもたちも見つかっているようなので、早く、原発事故との関係を調べてほしいです。また、子どもは、小学校に昨年入学し、元気に通ってくれることが、親にとっては安心しています。
- ・甲状腺検査(A2)の判定には不安を感じます。これからどうなるか、原発事故の影響なのかなども分かりませんが経過観察が必要だと思わなくてはならないことに不安！精神的不安ですね。

- ・ただただ心配なのは、5年経過して甲状腺検査で、できものができていないか、ガンになる確率が増えないか…という事です。将来心の健康も心配ですが、当時2歳ちょっとという事もあり、あまり覚えていないようです。体の健康が何より今は心配です。
- ・震災前の生活にもどりがつつありますが、子供の甲状腺検査などあると心配してしまいます。
- ・家もまだ建てて5年（建てて半年で震災に遭い）で引越すことも現実的ではなく、そのまま今に至りますが、子供の甲状腺検査も2回目にA2判定となったことや、私自身も違和感があり調べてもらったら、のう胞があると言われました。子供はもちろん、福島県民皆への健康への配慮を希望します。特に福島市民は、放射線の影響をだいぶ受けているのに補償が乏しいように感じています。
- ・『健康』という目にもえないものが、これから、どう変化していくのか…。長男（中2）は、最近の検査で、はじめてしこりが発見されました。（A2）でしたが、これがB判定になっていく可能性もあり、長女、次男にも、この先A2、B判定になるのではないかと。

イ 積算計（ガラスバッジ）

積算計に疑問を持つ声もある。

- ・いまだに、子供には線量計を持たせていますが、外で遊ぶ事も増え、ストレスも解消できている様です。
- ・子供達は毎日、線量計を首からさげている。日を重ねる度、首からさげている子供の数が減っている。我が家も以前に比べ「置きっぱなし」の回数が増えている。毎回結果は「異常なし」。将来の健康に対する「証拠」と思って毎回申し込んでいるが「意味あるのか？次回はやめよーかな？」と悩んでいる。
- ・小学校へ入学し、学校では春から校内の線量報告を止めました。（3月迄は毎月報告がありました）線量測定バッジを申込む人も激減していま

すが、ウチは息子2人に持たせています。(ランドセルに入れて)H27.5~11月迄でも0.14 μ Sv積算線量があり、「0」では無いという事。まだ終わってはいないし、検査も受ける・受けないの決定権は親なのに、「もう良いでしょ」と口にする親がいて、温度差があるのに気付きました。

ウ 特徴

子どもの検査に関する意見は増加傾向にあり、ニュースや新聞報道から将来の甲状腺ガンの発病を心配する声も多く、意識関心が高まっていることがわかるが、積算計(ガラスバッジ)に関しては、持つことの意味に疑問を抱く声が増えている。

(3) 母親の妊娠・出産

福島で妊娠または出産することで、子どもに影響がないか不安を感じ、妊娠に慎重になる意見がある。

妊娠・出産

- ・子供が2人いるので、3人目は考えていなかったが、福島で原発事故後に妊娠、出産している人がたくさんいる。仮に私が妊娠したら、福島で生むことはできないと思う。
- ・3人目を妊娠中で、赤ちゃん時代から丸々福島で過ごすのは3番目の子が初めてなので(他2人は、宮城に避難し、0才~4~6才になった)小さいほどに不安がある。

流産

- ・震災で娘を一人っ子にしてしまい娘に大変申し訳なく思っています。実は震災の年に、2人目を…と考えていましたが、震災で「もう子供はあきらめよう!!」と思いました。除染も進みだんだん以前のような生活に戻って来ているので…昨年の春に2人目を授かりましたが…死産してしまいました。6ヶ月に入り安定期に入り、女の子と分かったばかりで…娘も妹が出来るかと大喜びしていた矢先だった為、色々大変でした。

残念でした。震災・原発事故がなければ…と思います。

特徴

母親の妊娠・出産に関する意見は4件（2015年）から6件（2016年）に増加した。

6 人間関係

(1) 家族・近所・知人

夫、両親や親族との間に放射能に対して考え方に相違があるため、意見の対立や関係悪化につながっている。特に、子どもの将来や住む土地に対する考え方に相違があり、ストレスになることが多い。また、事故から5年が経過し、近所や知人との間で放射能に対する考え方に違いがあることを認識し始め、お互いに話題にしなくなってきている。

夫婦・両親・義父母

- ・お金さえあればすぐにでも移住したい。子供の将来のこと、住む土地のことで主人といさかいがふえ離婚話も何度も出された。モラハラ⁶にまで進んだ。転居の支援があればもう福島なんか早く出たい。住む場所も与えられ、お金の支援も手厚い、ひなん区域の人たちばかり助けられている。大人はいい、子供への支援金だけは県内（郡山、福島）の値が高い所は止めてはいけない。そういう働きかけをどうして誰もしてくれないのだろう。
- ・震災前は、なに事もなくすごしていましたが、子供が産まれてからは（震災後）少しの事でイライラしたり子供に怒鳴ったりとストレスがたまった様に感じました。（子供が）発達障害の事もあり、どういうふうにしていいかわからず、「うつ病」になりかけてます。育児に自信がなくなってきている状態です。親（両親）からも私に色々ぶつけてくるので余計に自信がなくなってきます。（たまにいやな方向へ考えた事があります）

親せき

- ・親せきの人で、避難地域に住んでいるので、仮設生活をしている人がいます。しょっちゅう我が家に泊まりに来て、長居をし、年末年始は親せき中の家をはしごしてなかなか自宅（仮設）に帰らないという生活を震災前から続けていて、正直みんなあきれています。人づきあいもよく、手がかかるタイプではないので、だれともでもうまくやっていける人なのですが、毎日来る度に話すことといえば、原発の補償問題で、弁護士との打ち合わせや講演会、デモ、など人の集まる所には必ず参加して持論を展開し、繰り返し同じような話をえんえんと主人とやっています。いつまでも支援に甘えて人にぶら下がった生活をしているのに、正義を主張していつまでも被害者のふりをしているように思えて情けないです。早く現実を受け入れて、自立して欲しいと思っています。
- ・普段の生活の中では、今は放射能のことはそれほど意識してくらすことが少なくなりました。（毎日放射線量は見っていますが）全く気にしないわけではもちろんありませんが。他の県から見てどう思うのだろうと考えることはあったのですが、もう前程気にする人は少ないのかなと思っていたりもしました。が、昨年8月に親せきで集まった際に『正直やっぱり福島には行きたくないし、物も食べたくない』と言われた時はハッとしました。やはりそうなのかって……。悲しくはなりましたが、でもやっぱり今住んでいるこの場所は好きだし、今のこの状況だったらずっと住みつづけたいと思っています。子どもたちにとってもいい環境だと思うので

近所・知人

- ・情報が少なくなった分、各々がそれぞれの判断で事故の影響を考えなければならなくなっていると思います。外遊びをさせてよいのか、野菜、魚は大丈夫か、等、各家庭での基準で可否を決めるので、その点については友人等と話しにくい気がします。上の子の学校での家庭科の授業で、各人が野菜を持ちよることになった事があります。同級生の中に

は福島県産のものを食さない家庭もあった為「用意するのは県外産で」と言われた時には対応に少し困りました。(子ども達の班で決めたため、学校側はノータッチです。)

- ・洗濯物も外干しはしていませんが、他のお宅ではふつうに毎日されているので、原発の話などはあまりできないかんじて温度差をかんじることもあります。(皆さん避難もされていないので)
- ・私の家の周りには原発で避難した方達が大きな家を建て、近所とトラブルになる事が多くなりました。目につくお金の使い方をしている方もあり自治会の班長をしているので、クレームが多くあがってきます。どうにもできないとわかっていますが、正直うんざりしています。

(2) 外部

「福島」出身者に対する差別や偏見を不安に思う意見が増加している。特に、学校でのいじめや結婚・就職などへの偏見を不安に思う声が多い。

いじめ

- ・震災前と変わらなくなってきていて良かったと思いますが、県外へ転校した子がいじめられて帰ってきました。又、ネットでは川島なお美さん北斗晶さんががんになったのは福島にきたからと記事が上がっていた事を知りました。福島から出ないと幸せかもしれませんが、子供が大きくなった時県外で幸せに暮らせるのかとても不安です。
- ・この震災と原発事故を風化させてはいけない、という想いと、早く忘れて元のような生活をしたい、という気持ちが入り混じっています。最近、夫が県内に単身赴任をする事になったのですが、今後もし県外に転勤する事になり、家族で引越しするとなった場合、その引越した先で福島から来たという事で子供がいじめにあったら・・・などと考えるようになってしまいました。あれからもう5年ですが、悩みが尽きないのが、切ないです。

結婚

- ・将来に対しての不安はありますが、一日一日大切に過ごして行ければと思います。大学生や社会人となった時、福島県人だからといって差別されない事を祈っています。(知り合いは福島県出身ということで結婚を破棄されました)
- ・毎年増える甲状腺ガンの子供の現状に対して未だ「因果関係はない」とする国に不安を感じます。新しく家族が増え、安全とされている水道水が本当に安全なのかを不安(疑問)に思いながらも、経済的な問題で使っています。真実を知れば、報道されたり、世間に明るみにされれば、もしかしたら子供が将来福島にいたという事でいじめや結婚話の破談につながるのではないかという心配・不安も同時に起こります。
- ・子供が将来他県の方と結婚しようとして、その方の親や親せきの方から、何か言われたりしないか、健康に支障はないか、それだけが心配です。
- ・周辺の線量は低い値をしめしているようだが今後、自分の体の変化に対してや、子供たちの体や妊娠、出産に対しての異常がどうなるのか、みえないところが心配なことがある。また、子供たちが大人になり、結婚するにあたり、福島に住んでいたことがネックにならなければいいと感じる。

差別

- ・震災から何年経っても、子供達の将来の事が心配(差別など)
- ・先日、めいっ子が関東から遊びに来ました。その際、あっちの友達に「福島行って放射能、大丈夫？」って言われたそうです。もう5年、まだ5年ですが、やっぱりそう言う子達が居ると少しガッカリしますネッ。でも福島にいる私達はがんばって生活しているって事を分かってほしいですね。
- ・子供達が成長するにつれ、忘れてはいけな大震災について、またいつ大きな災害がくるか分からない不安と心がまえ、未だに家に帰れなくて

困っている人がいること…色々と話したりします。言われているだけで、予想もつかない事へ不安を覚えるだけカナ…とも心配しますが…。食べモノについても、店を通さないモノに関しては食べないようにしています。そんな中でも一番不安で心配でどうしていいか分からないのは、「福島＝放射能」の差別です。子供達も少しずつ自分の意思で行動・発言するようになってきました。周りからの言葉や、ニュース、本など、これからたくさん色々な形で知ることになり、間違っただけでもそのまま受け止めてしまう時もくると思います。その時が心配です。時がたてば、それなりの「時期」の不安が出てきます。

- ・ 普段の生活の中では、ほとんど、原発や放射能の事を考えることが少なくなりました。友人や家族の中でも話題にあがらなくなりました。しかし、除染作業やモニタリングポストを見ると、まだまだ事故は終わっていないと改めて思うことがあります。人それぞれで、全く放射能を気にしない方もいれば、未だに色々と感じる方もいるようで、同じような子供をもつ方とも、原発については話づらい状況に感じます。今は、子供たちが、将来福島で育ったということで、偏見や差別を受けないかが、とても心配です。

その他

- ・ 県外に住む姉や妹に「原発事故の件はあまり報道されていないようだ」と聞き、県内と県外の原発事故に対しての差を感じる忘れられていくようで不安でもあり、子供達の将来を考えると「忘れてくれた方が良いのでは？」とも思ってしまう。
- ・ 私の住んでいる、ニュータウンにも震災後浜通りから避難して家を建てている方が何人かいます。うわさで、向こうの人だから、東電からのお金で裕福な暮らししてんだよ～。とか聞きます。もう価値観違うよね！と敬遠している人の話を聞いて嫌な気持ちになりました。同じ福島県民でも、そう思う人がいるんだなと思いました。お互い仲良く暮らせる世の中になってほしいです。私は全く気になりません。でも子供同志が

仲良くなったのに、実は避難してきたんだ〜！とかは、ママが明かさないので、少しひっかかります。

(3) 特徴

「(1) 家族・近所・知人」に関する意見が24件(2015年)から28件(2016年)に増加したのに対し、「(2) 外部」に関する意見は、72件(2015年)から46件(2016年)と減少した。「(2) 外部」に関する意見は、いじめや差別を不安に思う声が多くみられた。

7 情報

情報に関する意見は、①「情報不信」、②「風化」、③「風評被害」の3つに分けられる。

(1) 情報不信

情報不信については、ニュースや新聞などの報道や国・東電が出す情報に信用できないという意見が多い。またあふれる情報にどの情報が正しいのか判断がつかないという意見もある。

報道の不信

- ・時々、耳を疑うような情報が後出しで出てきたりするので、一体いつまで不安を抱えていなければならないのかと思う。正しい情報を常に提供してほしい気持ちと毎日毎日原発事故の話ばかり聞きたくないというジレンマ。
- ・子どもの甲状腺ガンが増えていて、とても不安です。新聞、テレビの報道が信用できません。かと言ってインターネットの情報も様々で混乱して不安です。
- ・原発における情報が色々ある中で、どの内容が真実なのか…と思う事があります。
- ・インターネットなどで原発事故等の情報を見てみると、自分のまわりと書いてあることの差があったりしてびっくりします。美味しんぼで、福

島に来て鼻血が出た内容はショックでしたが、それを信じるコメントにもショックでした。福島の方は、福島にいるうちは守られているけど、他の地域に行く大変なこともあるかもしれないと思ってしまいます。

- ・将来、放射能の影響が出て、病気になったりしないかとても不安です。大丈夫という情報がありますが、本当に大丈夫なのか、考えると不安です。

情報を隠している

- ・政府も情報を隠さずに開示してくれれば信頼できます。

正確な情報を得たい

- ・甲状腺ガンが数件あることを知りました。原発事故がまったく関係ないことは、ありえないと思います。私達、子育て世代に正確な情報を伝えてほしいです。
- ・甲状腺検査も今年がありますし、悲観的になりすぎず、ただ情報収集はしっかりとし気を引き締めて日々生活していきたいです。
- ・チェルノブイリでは事故後5年目以降から健康への影響（何かしらの疾患）が急激に増加したようです。福島でもそろそろそのような傾向が見られるようになるのかと思いますが、果たしてそうなったとして正しい情報は公表されるのか疑問に思います。結局は原発事故の影響とは考えにくい、と片付けられていくのではないのでしょうか？
- ・県内でガンの子どもの数が増えているそうですが、本当の情報はどのようなのでしょうか。やはり原発のせいなのかと不安です。
- ・正確な情報がとても知りたいです。どれが正しく、どれが誤っているのか、私自身、分からないので、不安が残ります。

(2) 風化

事故の記憶が薄れていったことから関心の低下や、話題にならなくなったという意見が、多数指摘されている。そのような中で、自身や周囲の原発事故の風化に対して不安や心配を覚える方も多い。

関心が薄れた

- ・原発も風化しはじめ、あまり気にしなくなってきた。(気にしていたら住んでいられない)

風化が不安・心配だ

- ・忘れられてしまったような気がします。
- ・震災直後は原発についてニュースや新聞等で情報が多かったが当然かもしれないが情報が少なくなっている。このまま風化されていってしまうのが心配である。
- ・風化を感じている。
- ・まもなく5年．．．早いような．．．不思議な感覚です。原発事故の収束には10年、20年もかかるでしょうが、それらも震災と同じく風化しているように思います。何より、私たち家族も忘れかけているのです。
- ・公園などで見かけるモニタリングポストや新聞の放射線情報。いつまで続くのか．．．。この5年大きな変化はみられません。すでに日常化。子どもが大きくなっていくのと同時に気にしなくなっていくのでしょうか。
- ・原発の状況などの情報が少なくなったと思います。少しずついろいろなことが風化するのではないかと考えています。自分の意識は風化しないようにしていきたいと思います。

話題にならなくなった

- ・近所の方々や保護者の方からは放射能に関する話もきかれなくなり、何となく風化しているような気がします。
- ・自分や、自分のまわりでは、震災からまだ5年しかたっていないが、日常生活の中では放射線等、だれも話題にすることはなく、学校給食にもふつうに福島県産が使われているが、みんな気にすることはないです。何年、何十年先に影響のある放射線のことより、インフルエンザや胃腸炎や食中毒の方が今はよっぽどこわいです。
- ・正直、日々の暮らしに追われて震災や原発事故の話をすることは日常に

おいてほぼなくなりましたが、毎月11日には新聞等メディアを通じて何かしら情報を積極的に得ようと心がけてはいます。

(3) 風評被害

事故から5年が経過し、県内外で風化していることや風評被害に苦しむ現状を危惧し、福島の現状の正しい理解を求める声が多い。

風評被害

- ・安全だと信じて住み続けているので正確な情報を伝えてほしいと思います。
- ・雑誌やネット、色々と間違った情報が出る事も多く、心を痛める事も正直あります。鼻血は出ませんし、かみの毛も抜けません。
- ・福島に住んでいる人達と他の県に住んでいる人の認識は、違うのではないかと思います。その事で、将来子ども達が差別される事がないように、もっと福島の正しい現状を情報として多くの方に発信してもらえればと思います。
- ・福島にいる分には風評被害を受ける事もないですが、県外に住んでいる友人や知人からは原発事故後、TV等で様々な情報が流れてきた頃心配してくれたり声をかけてもらいました。現在はどう思っているのか聞いてみたい気持ちはありますが、どういう反応が返ってくるのかこわいので聞けずにあります。先日主人が県外の知人と電話で話しているのを耳にしてとても悲しい思いをしました。内容は福島は犯罪者が多く住んでいた。確かに除染作業員の事件は過去に色々ありましたが、この方の発言はあまりにも偏見に満ちているように私は感じました。震災が起こり、事故が起きた事は事実ですが、その事ばかり伝えるのではなく、現在福島で生活している人達の今の心境や状況をもっと世間に伝えてもらって、一人でもこういった偏見を持つ人間が減ってくれるのが1番の願いです。

(4) 特徴

情報不信に関する意見は増加傾向にあり、マスコミや国・東電の情報への不信感を訴える意見が継続して多い。また、情報が多すぎることで、あらゆる考え方が存在すること、これにより、何を信じたらよいか迷うという意見もみられた。関心の低下に関する意見も増加した。原発事故からおおよそ5年が経過し、関心が薄れた、話題にならなくなったというような意見が多くみられた。

8 賠償・補償

(1) 補償・賠償への不満・不公平感

補償の打ち切りに対する不満を述べる意見が多い。また、行政や東電の賠償・補償の線引きをめぐることで、他人が優遇されていると感じ、その恩恵を受けている人に対して怒りや不快感を覚えるという意見も依然として多い。さらに、多額の賠償をもらう地域ともらえない地域が明白になり、賠償範囲の線引きに対する不満が指摘されている。寄付金の使途に対する疑問を呈する意見もあった。

補償の打ち切りへの不満

・特に目に見える被害はうけなかった福島市。でも見えない所で放射能は浴び続けている。それなのに補償金は早々に打ち切り。避難区域の人の一部は大量に出たお金で高級車を次々に買い替え。仕事もしない。家もテレビで言ってるほど苦勞してない。こっちは仕事が変わったり一時避難で大金がかかったり、家が住めなくなったから家を買ったりと。もらった補償金はすぐに無くなり事故時の借金ばかり残ったまま。5年たった今でも自由にあそび暮らす人を見ていると全てがばからしくなる。5年たとうが放射能はふりつづけてるし風評もあるし。この差は何なんだろうと思う。

避難・賠償の取り扱いに差異のある人への怒りや不快感

・補償について不公平を感じる。避難してきている方で医療費が無料だと

あたり前のように言ってくる。補償があるため、住民票も変えずに避難先に大きな家を建てているのを見ると同じ福島県民として不公平だと思ってしまう。

- ・原発事故、実際風化していると思います。ここに住んでいる私達でさえ、今はほとんど心配なく毎日を過ごしていますし、周りの方々も忘れていると思います。過敏になっているのは、実際被害にあわれた方々だけではないのでしょうか？！未だに、仮設に住んでいる方、国や東電から補償をもらい続けている方々、もう良い加減にしてよ！と言いたい位です。もうじゅうぶんだとこっち側からみると言いたくなります。
- ・「大熊町」や「浪江町」ときくと、反射的に嫌な気持ちになります。自主避難している人たちがテレビなどで「自分たちがいかに大変か」を語っているのを見ると嫌な気持ちになります。現在は育休中で自宅の中に居ることが多いので以前よりは気になりませんが、仕事復帰して社会と接すると、また気になるんだろうなあと思います。
- ・福島でそのまま住んでいる人と、避難して仮設に住んでいる人の考え方は全然ちがいます。だから避難者を「かわいそうだ、大変だね」と思う人はいないと思います。TVでは大変そうな人を写しますが、やりたい放題の人もいるという事を全国に知ってもらいたいです。避難していない私達が一番の被害者です。一緒の所に住んでいるのも嫌です。見るだけでがっかりします。

賠償の対象、範囲の線引きに対する不満

- ・長かった様な、あつという間のような・・・最近、風化して来ている様な感じがします。5年経ってだいぶ落ちついているのだと思いますが、ふに落ちないのがやっぱり賠償金です。今でも住みたくない！戻りたくない！と言って自主避難している人が居るのに、ずっとそこに住み続けている自分達には何もないのか？と思うと納得できません。だからといって避難できないし。避難できれば良いのに出来ないで複雑な気持ちでいる人が他にも居るはず。

- ・避難しない地域でも賠償金を支払ってほしいと思います。避難した人ばかりが医療費もかからず新車を買っている姿を見ているので、とても腹立ちます。避難した人より半額の賠償金を支払ってもらえたらと思います。まだ放射能問題は収束していないので、避難したくても出来ない人もいますので、賠償金を支払ってほしいです。
- ・震災の映像や大きい地震がないかぎり、話題にも出てこなくなりました。日々の生活では、ほとんど影響を受けていません。ただ、新聞などテレビで賠償の話や裁判の話を知ると苦い気持ちになります。賠償には不公平感がでてしまいます。もう自立にむけた時期がきているのではないのでしょうか。特に102歳の方が自殺した賠償の記事を見て、裁判にもちこもうとする事に疑問を感じます。福島県の印象ってゆがめられてしまっているのでは？なにもしなくてももらえるお金は人をゆがめてしまいます。本当は天災、働ける人は働くべきだし、もういいんじゃないでしょうか？
- ・避難してきている人たち（浪江などから）には賠償金が出続けているのに、ずっと住み続けている私達には何も出ない同じ福島でどうしてこうも違うのか？こちらは生活がやっとなのに、仕事もせずフラフラと遊び歩いている姿を見るのは苦痛です。除染に来ている人たちのガラも悪すぎて、子供を外に出したくありません。放射能よりこちらの方が深刻です。早くなんとかしてほしい。
- ・避難されている方々、生活等大変な事たくさんあるかと思いますが、損害賠償はとても手厚くてうらやましいです。私達のようなものは、そういった部分かなり少ないです。申し訳ないですが、不公平感があります。
- ・震災時は、仙台に住んでいました。様々な理由により、福島で暮らすことになり、住みやすくなるはりましたが、震災時に住民票が福島になかったことで、受けることができない補償がたくさんあり、とても不公平を感じてしまいます。東電の補償を受け、働かず遊んで暮らす人たちを見ていると腹が立ちます。なぜ遊ばせているのか、補償をなくしてほしい。

仕方がないことですが。

- ・東電から補償を受けている人との生活レベルの違いを大きく感じます。（お金の使い方が荒い。）補償を受けている方は、約5年間医療費の自己負担なしでできていますが、もうそういう補償も終わってもいいのではないかと思ってしまう。
- ・避難されている方は大変かと思いますが、避難されている方と、そうではない人たちに対する補償内容に差がありすぎると思う。心や身体的に受けている影響は同じ福島県民なら、そんなに変わりはないと思う。もうすぐ5年になるけど、これから先、子ども達が成長していくうえで、どんな影響が出てくるか、とても心配です。
- ・事故の補償額に関しては、どうしても不公平さを感じてしまいます。一生働かなくてもよい程、補償金をもらっている人たちもいます。

お金の使い道に対する疑問

- ・子供達は元気に外で遊んだりして、普通にしていますが、前の様な賑やかな公園には戻らないでしょう。除染していますが、意味があるのか。お金の使い方が違うのではないかと思います。見張ってないと手抜き。
- ・今私たちに何かの補償をしてほしいとは思わないが、一部の地域の方の補償がやりすぎだと思う。いつまで補償していくつもりなのか。もう充分だと思います。もっと他にお金を使うべきところがあるのでは？
- ・過ぎてしまえばあつという間の5年でした。でも震災があったときのことは今でも鮮明に覚えているし、津波の映像はなるべく目にしたくないと思ってしまう。福島でもたくさん子ども達が元気に生まれ育って、普通に生活をしている（するしかない）ということを経験者に知ってほしいです。でもまだまだ周辺には仮住まいの方々もたくさんいて、正直、オリンピック等に多額の費用をかけている場合なのかと、素直に開催を喜べなかったりしています。
- ・今、まだ除染作業を行っているがはたして除染は今になってまだ必要なのか。必要とならば行ってほしいけど、今さら…ならお金は他に使っ

てほしい。もっと原発作業に力を入れてほしい。また新聞でよくのる町の事件（刑事事件）に、除染作業員という職業がよくのっている。それがこわい・・・。

- ・知らない団体から子供には園を通して物資を頂き、助かっています。しかし、今の現状は全く分からず、ガラスバッチも意味無く思ってきてます。もっと他の対策とかしてもらいたい。国も今まで頂いた支えんをどう使ってるのか報告もない。東電からもらってるお金で続々と家を建ててる方が多く、不公平に感じる。もっとつらい思いをした人をどうにかしてあげてほしいと願います。
- ・復興はあまりすすんでいないように思う。私は家があるからいいが、未だに仮設住宅に住んでいる方がいて、復興のための資金はどうなったのだろうと思う。その使われ方が変なところに使われている記事を見たことがあって、そんなとこに使われるくらいなら、早く仮設の人たちのために何かした方がいいのではないかと思う。5年にもなるのに、いつまでも仮設でいいのだろうかとか疑問に思う。以前のようにとは言わないが、仮設住宅がふつうにあるというのはおかしいと思った。
- ・身近に浜通りの帰宅困難地域から郡山市内に住まわれている方がおりますが、家に戻れない心情は図りしれないにしろ、子に言われた物を買えば、（賠償金や精神の損害の費用）やるべきことができない子をみると、このままで今後の福島の子は大丈夫なのか？と思います。国も結局、中間だけでなく最終処分場も県内におこうとしているのでしょうし、モルモットのように感じることもあります。甲状腺検査放射線についての立派な紙のパンフレットや、住めそうにもない所の除染に使うお金があるなら、本当に必要な教育へのお金にして欲しいです。子育てしやすいように、保育所・幼稚園安くして欲しいです。
- ・同じ県に住んでいるのに、補償の差は不平等だと思います。多分、私の周りもそうなので、帰還困難区域、居住制限区域等々に住んでいた方、福島に住んでいるのに住民票をいつまでもうつさない方々を信用できな

いといったらオーバーになるかもしれませんが、そう言う目で見て、そう言うわべだけのお付き合いになっているような気がします。他の所にお金を東電はじめ国や県市町村は使うべきではないでしょうか？！

9 対応全般

(1) 行政の対応に対する不満

行政の対応に対する不満がある。例えば、除染で出た廃棄物の処分場に対する不満や事故から5年が経過しなかなか進まない復興に対して、対応の遅さを指摘する意見がある。

- ・国も県も市町村も後処理が後手後手になっている。福島県内の子どもの甲状腺腫瘍が異常なほど見つかっているのに、「これまでのデータがなかったから」「原発事故との因果関係が認められない」など責任逃れが、不愉快でならない。全てがこの言葉で解決されてしまうのであれば、福島県を閉鎖し、県民は他県へ移住させるべきである。
- ・前から比べると周りもあまり深刻になってる訳ではない。ほとんど忘れられている（この状況）ように感じる。でもまだまだ子供達が小さいので今後もっともっと子供達が安心して暮らせる、遊べる環境作りを国をはじめとして行動にうつしてほしいと思う。
- ・私の住んでいる地区は、最近ようやく除染が始まりました。震災から間もなく5年になるのに県や国は一体何をしているのか？と思う。福島県は除染のため、作業員が全国から集まっています、新聞ではよく事件を起こしてとても治安が悪くて困っています。補償の問題にも不公平があるし、居住制限区域以外でも、福島市は放射能も比較的高いのに、今では何の補償もなくその点でもとても不公平さを感じます。子供達が大きくなってからの事が心配です。
- ・何をどうもがいても今更。甲状腺検査以外に国や東電からフォローしてもらっている事は何も無い。・当時、子供のいた家庭を大切にしたい。ごみの様な扱いに感じる。・当時、看護協会の協力で、福島県に援

助に来た看護師は「ゼロ」。他県は大人数だった。結局、国から捨てられている。権力が無い、お金が無い事って、どうにもならないんです。子供に申し訳なく思う。

- ・国会をみると、選挙のための議論がとび交っていて、とてもこの原発事故をどう復興に向かわせようかということは足ぶみしているので悲しくなります。子供を責任のもと育てていくのは親としての当然の役割ですが、教育環境を充実して、将来につながることを1つでも多くしていきたいと思っています。
- ・公的な帰還者への支援ではなく、今、住んでいる我々への支援をお願いしたいと強く感じております。今の公的な動きは、何もなかったかのようになりたいとしか思えません。当時と何もかわらないままに、以前のようにもとに戻りたいと思っているとしか思えません。私たちはまだ苦しんでいます。
- ・郡山市は、(他市町村もですが)被災者を受け入れております。行政は様々な取組みを実施しようとしておりますが、結局市民に公平には届かず。豊かな生活も議員ばかり。何故なのでしょう？子供達にかかる費用は増えるのに、民間で働く私共の給与は追いつきません。公園や子供たちが集う場を整備するならまだしも、どうでもいい所に税金で整備する行政の動きに納得できません。
- ・5年たってもいつも同じ対応に不安も不満もあります。市の方からも！！何か方法を提案してほしいです。これが率直な心境です。
- ・放射能については、目に見えるものでは無いので常に不安は消えません。この精神的な苦痛は、皆さんも同じだと思います。国・東電に対しては、この現実を、もっともっと考えてほしいと思っています。
- ・心の傷は今も残ったまま。避難区域でないからと補償の対象にもならない！と変わらない返答。何年もつらい気持ちのまま過ごしています。ごく身内にしか相談も出来ず、一般的でない問題で悩み続けている人もいるのです。原発の事故の為にこうなったのは明らかです。一つ一つの事

情をくみ取り、広く救いの手を伸ばして頂ける様、祈ります。

- ・これ以上のよけいな心配（治安など）をしたくないので、オリンピックの福島利用は反対です。県などは私たちの気持ちが分かっていません。
- ・何も変わらないことにもうあきれております。じょせんばかりがところどころでおこなわれていますが、それくらいで何も変わっていませんし、誰も原発の話はしません。子供達のために、福島市にも、室内で小学生が体をたくさんつかってあそべる場所を一つでいいので作ってほしいと何年も色んな人が言ってきましたが、今もありません。小さい子むけの室内は7個ありますが、体をたくさん動かしたい小学生が、そこへ行くと、走るな！！と注意され、体をめいっばいつかう室内あそびなんてできません。本当に小学生くらいの子供達がかわいそうです。何一つ変わらないのだから、その一つくらいは、かなえてほしいです。と話しても、何もしていただけないのだな…と皆、本当にあてにはしていません。国や県のおえらい方は、自分のことには一生けんめい市民の声はとどかずの日々ですね。
- ・各地で原発が再稼動したり、原発事故の風化を感じています。口では福島の復興等と言っていますが、国のトップの方々は言うだけで実際に行動している感じがしません。
- ・国も東電も、時間が経って忘れられるのをまっけているとしか思えない。自主避難者は、行った先でも生活できず、戻っても居場所はなく肩身のせまい思いを子供にさせている。
- ・子供の甲状腺癌が増加しているのに、なぜ、何の対処もないのか、情報もしっかり発表されていない。安全であるという確信できる根拠もないまま、安心、安全アピールされていることに対し、不快な思いでいる。最終的に誰が責任を持ってくれるのか、はっきりしないのに、帰県するようすすめることは、おかしいと思う。アンダーコントロールと言っているのに、なぜ、非常時の年間20 μ シーベルトのままの数値を継続しているのか、非常時でなければ居住制限となる区域のはずなのに、都合

よく、ごまかされていると思う。国や県などの対応は不誠実で信頼、信用には値しない。いつになったら真実を公表するのか、まったくせずに福島県民の人権を無視し続けるのだと思っています。

- ・最近では行政もあまり放射線除染に関わっている様子が感じられず、東電の対応の方が良いようなイメージすらあります。もっと県民、市民のために何回も除染をしたり、子供手当を増やしたりという対応をしてほしいと思います。
- ・本当に放射能は“体に悪い影響を与えることはない”ということを証明して、私達を安心させてほしい。私達の心の故郷福島県を返してほしい。
- ・福島県民にとっては、特に今の子どもたちはこれから風評被害という大きな目に見えない問題をかかえていくのだと思います。私たちは生活するため避難することは無理です。この福島県民にとっては国や東電からなんの支援もありません。ただただ風評被害を受けていく。国の対策もしょせんは他人事のように感じられます。とにかく今の子どもたちが安心して生きていける日本にしてほしい、築いてほしいと思っています。国は我々の立場に立って考えてほしいと願います。
- ・国の偉い方々、東電のおえらいさん。みんな、福島を拠点に生活してみるべきです。東京にいては、感じられませんよ。
- ・国は県外の子ども達がきちんとした情報を得られるように授業に取り入れるカリキュラムを作成してほしいです。
- ・支援法は一体どうなっているのだろう？自主避難者交流会のお手伝いをしているが、応急仮設の1年後の返還に向けて深刻な方はたくさんいる。情報も、国や県の施策も今ひとつピンとこないものばかり。
- ・震災から早いもので5年が過ぎ、放射線値も比較的低いので特に心配せず生活しているが長期に渡る生活が本当に身体の健康状態に支障をきたさないのか、それだけは本当に心配です。風化させずに今後も国・県・地域レベルで気をかけ、フォローしてもらいたいです。
- ・自宅の除染は終わったものの、汚染土は庭に埋められたままで、あまり

変わりがないような気がします。このように不安を感じながら暮らしている国民または県民、市民。この国の政治家たちは自分がかわいいものだから、自分に不利になるようなことはしようとしません。まずは汚染土の処分場を福島県の候補地に決定させ、各家庭の汚染土を一刻も早く処分場に運んで欲しい。避難地域の人たちの意見ばかり聞いていないで、私たちの声も聞いて欲しい。最終処分場にしても、原発再稼動にしても、国や自治体は自然をこれ以上、壊さないで欲しいと訴えたい。これ以上自然破壊が進んだら、私たちも未来ある子どもたちの身も心も壊れてしまいます。

- ・またあの震災と同じ事がおきたらもう二度と生きてはいないだろうと思うことがあります。そのために国や東京電力はこれとって何をするわけでもなく、取り組みが大きく変化したわけでもなく・・・ただただ無駄に家のまわりや道路などを除染するだけで、この福島の土地をほりおこして満足しているだけのように感じています。
- ・ニュースをみても国会では、くだらない足のひっぱりあい、どうでもいい言い訳、ケンカごしの言い合い。ばかばかしい。国民のことを真剣に心配して、日本を世界をより良いものをつくりあげようとしてる政治家はいない。
- ・事故がなければ全くないはずだった心配をこの先もずっともちつづけなければならない負担を、東電や国は全くわかっていないと思います。そのことへの怒りも、消えることはありません。
- ・東日本大震災・福島原発事故が原因ではないと思います。国の財政状況が悪化しているから、児童手当等の給付を減額もしくは廃止を考えているという話を耳にしました。補償の不公平感、除染作業等への不信感、未来を担う子供達への給付金減額・廃止等々、避難をせざるに生活している、子供を育てている家庭はどのような気持ちで毎日を過ごしているか、上手に伝えることが出来ない文書で申し訳ありませんが、広範囲に目を向けて政策等の対応をしていただきたいです。

- ・5年経ってどのくらい福島は戻ったのでしょうか。生活上の不安はほとんどありません。しかし、政治に対しては疑問があります。国家予算から多くの金額を使われるような制策が言われていますが、できれば全てを復興にまわしてほしいと思う気持ちがあります。復興のため福島には他県の方が作業員として来られています。一部の方々でしょうが、性的問題があったりで福島では若年のシングルマザーがふえたりしています。早く復興作業も終わって、他県の方にも戻っていただきたく、安全な福島の生活に戻ってほしいと思います。
- ・国が増税にあたって、軽減策を考えているようだが、震災に苦しめられた人々の復興に使ってくれないことが理解できない。介護を必要としている人、障害のある人、育児をする人、低所得者のことを考えてほしい。

(2) 東電の原発事故対応に対する不満

東電の原発事故対応に対する不満もある。例えば、対応の遅さ、処理に対する不手際、誠意のない事故の対応についてである。また原発事故から5年が経過しなかなか進まない復旧作業に早い収束を望む声がある。

- ・ADRを行っているのですが、東京電力の心ない答弁書に傷付き、賠償の交渉もままなりません。一体、この事故をおこしたのは誰なのか、5年の節目にもう一度社会に問うてみたいです。また「教訓」足り得ない、国や自治体の事故対応から改善されていないのに、原発再稼働をすることへの恐怖と怒りをおぼえます。
- ・もうこれでおわりですか？学校は0.2くらいあります。他は0.05とかですよ？少しでもせんりょうをへらしてほしい。年月たってせんりょうが減るのを待つのではなく東電本当に早くなんとかして。このままにしないでほしい。くやしい。
- ・自分が外に出ると、子供も出たがるので（月の半分は自主避難で東京のため）こちらにいる月半分、ずっと閉じこもっているのがつらかったです。その閉じ込められた感覚が今でも抜けません。11月に庭、屋根の

除染があり、現在庭がまっさらです。そのまっさらな庭を見る度、事故があったことを思い出します。除染も事故をおこした会社が責任を持って、もっともっともっともっと早くすべきでは、と思いますかね。

- ・浪江などの避難者はいつまでも東京電力のお金をもらっていないで自立してほしいです。浪江ばかりお金をもらってずるいです。福島と言うだけで風評被害をうけているのに東電には平等にしてほしいです。
- ・我が家は当時、家の庭が0.5-0.8 マイクロシーベルト（地面に直置き）で、低かったので除染は今やっと同意書を提出し、モニタリングしてもらっています。しかし、時が経ち、5年も経過して線量を計ると、0.23 マイクロシーベルトを下まわり、除染をしてもらえないというなんとも悔しい結果の家がたくさんあります。もっと早く除染をしていればもっと値は高く・・・とても腑に落ちないです。しかも自分達でお金を出して、業者にやってもらったお金は、期限10日だけ過ぎているので東電には補償してもらえませんでした。
- ・東電、補償が不公平すぎる。うちらは、マウスじゃない。子供の事・人間の事、もっとしっかり感じてほしい。不公平すぎる！
- ・東電は、なんにもわかっていない。今をただとおりにすぎているだけ。けっきょくはみんな人事だ。本当にフクシマにうまれて運がわるかった。でも全国に放射能はとんでいるわけだから、除染してもらえないところのほうがかわいそう。

(3) 原発事故を踏まえた原発の是非

原発事故の被害を経験し、原発再稼動について否定的な意見、不安の声が多くみられた。

- ・いつも書かせていただいています但原発はいりません。世の中がそういう方向で動いてくれることを心から願います。
- ・原子力は私達の生活にとっても役立つのですが、この機会にやめるべきだと日々思っています。同じことの繰り返しをするだけだし、

この地球の異常気象を見ても明日何がおきるかわからないと、そう知識のない私でも予想ができます。頭のいいエライ人達に目先の利益ではなく、未来の子供達へつなぐ、正しい判断を行ってほしいです。

- ・あのような大惨事があったにも、かかわらず、原発が再稼働していることにも疑問を感じている。国は本当に安全と思っているのだろうか？
- ・世の中で風化しつつある中、私達福島県民は、まだまだ放射線におびえる日々を送っているにもかかわらず、原発再稼働のニュースは信じられません。
- ・こんなに大変な事故があったにもかかわらずまだ、原子力に頼っていく生活が続く事がとても悲しく、また事故前と変わらず処分できない核のゴミを作ることをやめない事にいきどおりを感じる。
- ・大変な事故が起きたにもかかわらず、原発再稼働へ動きだしていることは、とても悲しいです。ドイツのように英断を下して欲しいです。
- ・原発の再稼働に怒りを覚えます。
- ・原発はもう再稼働してほしくないです。私たちと同じように苦しむ人が増えてほしくないです。
- ・放射能の扱い方というか事故が起きた時の、安全な対処法がだれもわからないのに使い続ける人の気持ちがわからない。きっと自分の家に関係のない人達だろうと思う。原発推進の人は原発の周りに住めるのだろうか？と思う。日本でまた同じことがおこったら、食べ物がなくなったり住むところがなくなると思う。放射能を安全に人間が扱えるようになってから使用するべきだと思う。
- ・有名になった「フクシマ」ですが、原発事故後の諸々の改善は遅々として進んでいませんが、すっかり「過去のこと」になっているのではないのでしょうか。あちこちで再稼働の動きがあり、あれだけの事故を体験しながら、この国は一体何を考えているのか。破滅に自ら向かっていることがなぜ分からないのか私には理解できません。
- ・世の中で風化しつつある中、私達福島県民は、まだまだ放射線におびえ

る日々を送っているにもかかわらず、原発再稼働のニュースは信じられません。毎日、何とか気にしない様にながら子育てをしていく中で、将来どうなるのか不安です。

（4）特徴

対応全般に関する意見は大きく増加している。年月の経過とともに、行政・東電の変化の無さが浮き彫りになり、不満を募らせる方が増えているのがわかる。

10 健康

（1）子ども

子どもの現在の症状が事故の影響なのかわからない、子どもの将来の心と体にどのような影響が及ぼされるのか不安、という声があった。

ア 現在

- ・少しずつまわりの子供の病気が多くなってきました。姪っ子も甲状腺が腫れて検査に行きました。娘が元気なのが私のささえです。
- ・子供がよく鼻血を出すのが果たして事故のえいきょうがあるのか、食べ物も気にしなくなったが果たして本当に大丈夫なのか。
- ・外にあまり出ない事で子供の健康面は心配。上の子は時々鼻血が出るのも気になる。全く心配ない生活に戻るのはあきらめかけている感じで悲しいと思う時もある。
- ・震災時1才10ヶ月だった息子は少しだけ小心者です。小さな地震にも敏感だったりしています。妹や弟がうまれて家族も増え、お兄ちゃんとしての立場とプレッシャーもあり、イライラすることもみられます。
- ・鼻血をたまにでも出すと怖く感じる、のどが痛いと言われると風邪だったとしても心配になるなど身体の不調があると“原発”とってしまうことが多々ある。
- ・耳の後ろにあるリンパ腺が大きく腫れ上がった時に医師に「5年近くに

なると影響がでもおかしくない。(悪性リンパ腫)も考えられる」と言われ総合病院での検査をするよう言われた。

- ・ 医大の県民調査の結果では「A1」でも、実際は無数の「のう胞」ありの娘を「もう大丈夫」と福島に戻すことはどうしてもできません。

イ 将来

- ・ 除染作業も進まず、毎日不安な気持ちで過ごしていますが、月日が経つにつれて放射線量に関しても関心がなくなりつつあります。しかし実際は放射能は残っており、健康面でこの先どのような影響が出るか心配しております。
- ・ 原発事故の身体への影響はすぐに現れるものではないのかなと思うと、今後の子供の身体が本当に大丈夫なのかと不安を感じる事もあります。(2回目の甲状腺検査で以前より結果が悪かったため)でも、前向きに日々楽しく生活するようにしています。
- ・ 今の生活をしていて普段は原発の影響を考えることはほとんどありません。今後、子供の健康や結婚、出産、自分達の健康に何かあった際には原発のことを強く考えることがあるかもしれないと思っています。
- ・ 健康被害については、実際に子ども達が大人になったり、この先10年20年30年と経過した時に出てくるのではないかと不安になりますが、あまり考えるときりがないなあと思います。
- ・ 今は放射能も下がってきて、震災前と変わらない生活をしています。このまま大丈夫だろうと思っていますが、10年後、20年後、子供達の健康は今と変わりなく元気でいられるのか?その未来については心配も残っています。
- ・ 現在は状況が落ちついてほぼ以前のような生活を送っていますが、将来、子どもたちが大人になったときちゃんと子どもを産めるか?病気を発症しないか?との不安はあります。

子どもの将来の損害に対する賠償・保障

- ・これからも、また地震など起きたり、放射線の問題が気になります。子どもたちの体に影響がないか心配なものもあります。だから年1回は、子どもたちにも賠償金が出ると良いと思います。原発事故で私たち福島の人たちは、皆、被害を受けている人たちなので困っている人たちのために、支援があっても良いと思います。これからの子どもたち将来生活していくうえで、少しでも支援をしていただきたいです。東京電力の方がたに。
- ・‘原発事故’‘放射能’という言葉が消えつつあるように思えます。5年経った今、福島で子育てしつつも子供たちの身体を心配する気持ちは全く消えずにいます。政府がだめなら県や市で子供たちを救って欲しいです。「保養」を出来る(夏休みなど)施設、補助金などあれば私達も少しは安心して暮らせます。
- ・10年後・20年後に体に影響が出た場合などの補償がきちんと行ってもらえるような制度ができると安心です。
- ・子どもの30年後の体はどうになってしまうのか。長期的に健康でいられるための医療の保障をしてほしい。
- ・最近になって子供の甲状腺異常が増えてきたと聞き前から言われてきたとはいえ、ますます心配になってきました。郡山に住んでる子供たちは何の保障もなく何の手立てもされずただ医療費が無料というだけで、はたしてこれで良いのか腹立たしく思う、せめて、子供だけでも救う何か考えてもらいたい。思えば大震災直後、原発事故直後、なぜ福島市、郡山市の子供たちだけでも放射能の低い所へ逃げさせるべきではなかったのか?いくら考えても残念で仕方がない。これから孫がどのような健康状態なのかずーっと見守っていきたい。
- ・お金の補償はいつでもいい。こどもの健康の保障はしっかりして欲しい。
- ・子供の健康への影響がとても心配です。甲状腺検査でガンとしんだんさんされている子供が多くいるにもかかわらず、それは放射線の影響ではない

とっているのを聞いて、おかしいのではないかと情報がかくされているのではないかと思います。もっとこれから先、子供たちの生涯を保障する制度をつくってほしいと思います。

(2) 親

原発事故のストレスで病気になったという声や、将来の健康面、生活面の心配をどうやって払拭できるかわからないという声もあった。

ア 現在

- ・ 昨年末、私自身が病気になり、とても大変な1年になりました。(子供にとっても) 少なからず、震災、原発事故でのストレスも原因の1つになったと私は思っています。子供たちのためにも元気になりたいと思っています。
- ・ この頃になり、震災時の頃の話になると胸がしめつけられるような、息苦しいような、どうしようもなく辛い状態になってしまう。しゃべることもままならなくなるが、会話を止めると治まる。
- ・ 私は、今でも「ゴー」という音がすると、心臓がドキドキします。とても恐怖です。
- ・ 私も心が疲れてしまい、現在休職をしている状況です。希望をもっている反面、子供や家族が心配でたまらないです。自分自身、持病の気管支炎ぜんそくが悪化しています。

イ 将来

- ・ 子供も自分も家族みんながこれから将来の健康面生活面で心配しています。どうやって心配がぬぐいとれるのかわからない。
- ・ うまく表現できません。未だに自分の心の奥の方にしまっているようなどうしていいかわからないような気持ちです。原発事故以前のように環境が戻ることはないし、また地震、津波がきたら、また同じようなことになるのではと不安だし、子ども、夫、両親たちの健康について現在も将来も常に不安。現実には5年近く経って身近な人でガンになったり、

心臓の病気になった人がいるが、それも放射能の影響だろうと考えたりしてしまう自分がいます。前を向いて進みたいし、進んでいるつもりだが、健康については年を経るごとに年を経ても不安になるのかもしれない。

(3) 特徴

子どもの健康に関しては、将来の子どもの健康について不安や心配を感じるという意見が多い。また、子どもの健康被害に対し、対策と賠償・補償が適切に実施されることを望む意見がある。親の健康に関しては、精神的な疲労、将来への不安が多くみられた。

11 2016年の母親たちの声に関する考察

1 各項目の回答数

下記に示す分類項目の回答数は絶対数ではなく、あくまでも読み手の主観によって数えられた数字である。また、項目間で重複して数えているものもある。2016年の自由回答欄に多い意見は、第1に、風化（関心の低下）、第2に、子どもの将来の健康、第3に、補償をめぐる不公平感、第4に、除染に対する不満・疑問、第5に、国・行政の対応への不満である。

		2016年
1 生活拠点		259
	(1) 避難関係	100
ア	避難継続中	38
イ	避難したいが戻ってきた	8
ウ	避難したいができない	23
エ	避難しない	31
	(2) 保養関係	30
ア	保養プログラムの拡充を望む	18
イ	保養に関する情報を得たい	2

	ウ	保養に満足した	10
(3) 除染関係			129
	ア	除染にある程度満足している	21
	イ	(実施の有無にかかわらず) 除染に不満がある、除染の効果に疑問がある	90
	ウ	除染を望む	18
2 食生活			62
	(1)	地元産の食材や水道水はできるだけ使わない	31
	(2)	地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている	22
	(3)	学校(保育園)給食に対する不満	9
3 家計負担増加			40
	(1)	他県産の食材・水の購入費用	9
	(2)	外遊びの代わり	9
	(3)	その他	22
4 子育て			106
	(1)	放射能対応(行動)	40
	(2)	放射能対応	60
	ア	子どもの検査	44
	イ	積算計(ガラスバッジ)	16
	(3)	母親の妊娠、出産	6
5 人間関係			74
	(1)	家族・近所・知人	28
	(2)	外部(いじめ・差別)	46
6 情報			241
	(1)	情報不信	51
	(2)	風化	168
	(3)	風評(土地・食べ物)	22
7 賠償・補償			
	(1)	補償・賠償への不満・不公平感	102
8 対応全般			123
	(1)	行政の対応に対する不満	71
	(2)	東電の原発事故対応に対する不満	24
	(3)	原発事故を踏まえた原発の是非	28

9 健康		198
(1)	現在	53
ア	子ども	31
イ	親	22
(2)	将来	145
ア	子ども	128
イ	親	17

2 声の変化

原発事故から5年を迎えた2016年の自由回答欄に目立った声は「風化」である。風化、すなわち、関心の低下は、それは、原発事故を忘れられていくことに対する不安、気にしなくなったという声、放射能汚染が生活の一部となっているという声、地震速報にも慣れてしまったという声などに代表される。また、気にしていたら、住めない、諦めの気持ちなどが発せられている。

2013年、2014年、2015年の自由回答に比べて、2016年は、生活拠点の選択、すなわち、避難と保養をめぐる自由記述が減少する一方、除染に関しては依然として関心が高いことがわかる。また、地元産食材や水道水の使用に関する自由記述も減少しつつある。家計負担、子育て、人間関係に関するコメントが減少する一方、健康と補償に関する内容が根強く多いという結果となった。

3 アンケートからみる原発事故後の生活変化

原発事故後の生活変化には4つの傾向が確認できる。1つめは、事故後5年が経過してもなお、多くの人が「あてはまる」と回答している項目（「補償をめぐる不公平感」「放射能の情報に関する不安」）である。2つめは、ゆるやかな減少傾向にありながらも半数程度の方があてはまると回答している項目（「経済的負担感」「健康影響への不安」「保養への意欲」「いじめや差別への不安」「子育てへの不安」）である。3つめは、あてはまる方が

急激に減少し、その後、横ばいとなっている項目（「地元産の食材を使用しない」「洗濯物の外干しをしない」「避難願望」）である。少なくなったとはいえ、これらの項目には2~3割の方が「あてはまる」と回答している。4つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目（「放射能への対処をめぐる配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」）である。

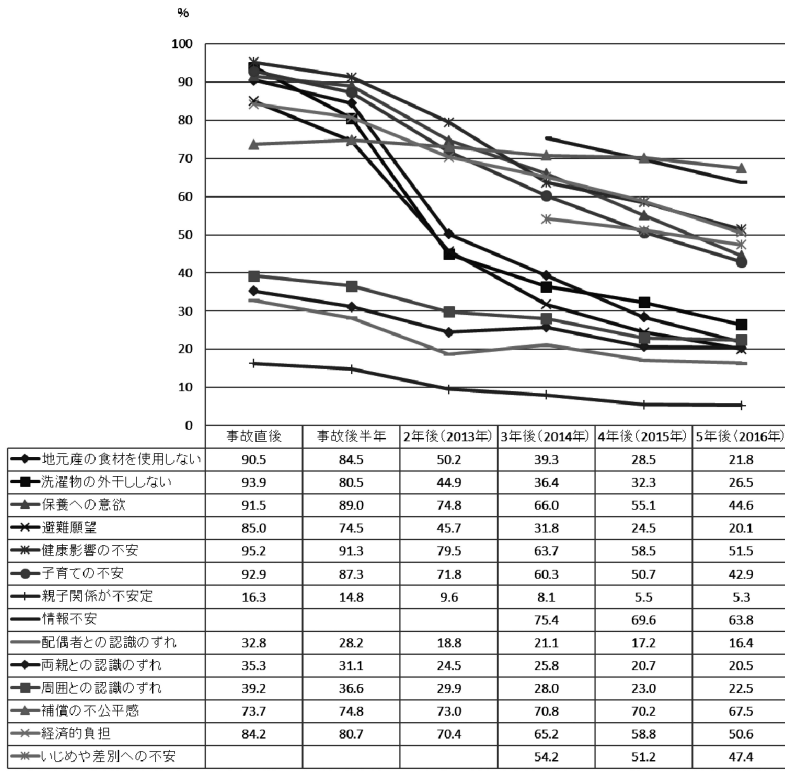


図 1 原発事故後の生活変化*「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合(%)

一方、「外遊び」の時間については、時間の経過とともに増えている。しかし、全国水準と比べると、いまだ差は大きい。1日あたり1時間以上

外遊びをするのは福島では36%であるのに対し、全国では47%と10ポイントほどの違いがみられる。特に、2時間以上は全国16%に対して、福島は半分の8%である。

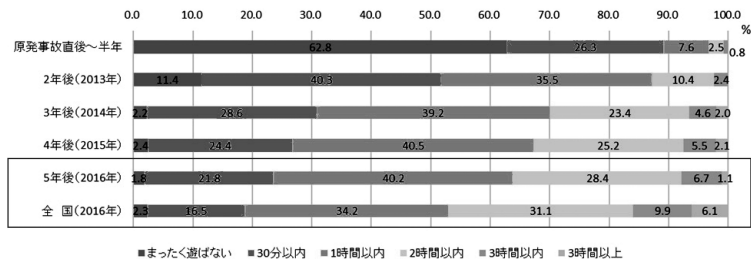


図2 外遊びの時

「テレビ・インターネット」をみて過ごす時間は、「外遊び」の時間よりも大きく上回っており1時間以上が8割を占め、これは全国水準(67%)を上回っている。それでも、昨年と比べると、2時間以上との回答が42%から33%へと減少している。

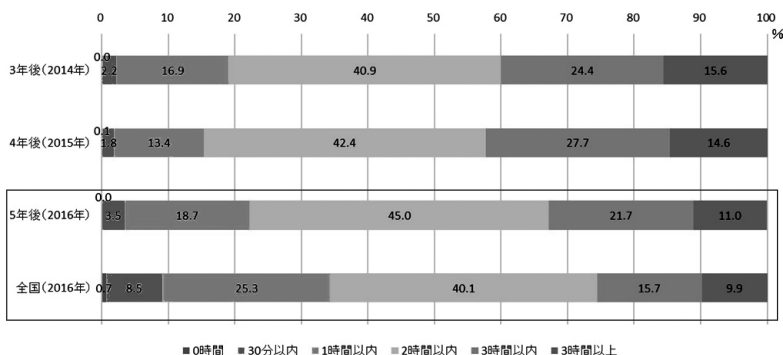


図3 テレビ・インターネットの時間

最後に、自由解答欄に記入した人の「子どもからみた続柄」、「回答者が母親の場合」の年齢層と居住地の内訳を示した。なお、「調査回答者」とはアンケート調査に回答した人を指す。

〔続柄〕

続柄	第1回調査(2013年)			第2回調査(2014年)			第3回調査(2015年)			第4回調査(2016年)		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
母	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02
父	11	33	33.33				36	65	55.38	27	49	55.10
祖父	0	1	0.00	22	71	30.99	1	1	100.00	1	1	100.00
里親	1	1	100.00	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	1	7	14.29	3	6	50.00	4	5	80.00	3	3	100.00
曾祖母	0	1	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	1203	2628	45.78	718	1606	44.71	746	1208	61.75	612	1021	59.94

〔回答者が母親：年齢層別内訳〕

年齢層	第1回調査(2013年) ：2585人			第2回調査(2014年) ：1528人			第3回調査(2015年) ：1138人			第4回調査(2016年) ：968人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
20代	161	462	34.85	55	158	34.81	29	77	37.66	16	41	39.02
30-34歳	411	919	44.72	207	505	40.99	189	311	60.77	119	216	55.09
35-39歳	432	852	50.70	260	543	47.88	281	420	66.90	225	366	61.48
40代	178	340	52.35	165	311	53.05	204	324	62.96	217	340	63.82
50代以上	1	1	100.00	0	1	0.00	1	2	50.00	3	3	100.00
無記入	7	11	63.64	5	10	50.00	1	4	25.00	1	2	50.00
全体	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02

〔回答者が母親：居住地別内訳〕

市町村名	第1回調査(2013年) ：2585人			第2回調査(2014年) ：1528人			第3回調査(2015年) ：1138人			第4回調査(2016年) ：968人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
福島市	426	873	48.80	241	504	47.82	216	358	60.34	185	308	60.06
桑折町	22	34	64.71	13	21	61.90	10	18	55.56	7	12	58.33
国見町	15	27	55.56	8	12	66.67	4	10	40.00	6	10	60.00
伊達市	67	173	38.73	46	109	42.20	40	82	48.78	35	71	49.30
郡山市	462	1059	43.63	255	601	42.43	284	453	62.69	230	377	61.01
二本松市	79	169	46.75	48	105	45.71	46	69	66.67	37	66	56.06
大玉村	15	41	36.59	10	26	38.46	11	20	55.00	14	20	70.00
本宮市	55	123	44.72	30	76	39.47	41	54	75.93	28	44	63.64
三春町	12	34	35.29	6	15	40.00	4	10	40.00	5	10	50.00
9市町村外	37	52	71.15	35	59	59.32	49	64	76.56	34	50	68.00
計	660	2585	25.53	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02

	回答総数 (2017/4/3 時点)	自由記述 記入数	記入率	文字数	一人当たり 文字数
第1回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第2回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第3回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第4回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5

-
- ¹ 本稿は、科学研究費助成事業（15H01971、25460826）の成果である。2016年調査の全体的な傾向（単純集計と全国調査との比較）は「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書（2016年）」（2016年6月）に掲載されている。「福島子ども健康プロジェクト」のホームページ（<https://fukushima-child-health.jimdo.com/>）の「研究成果」でダウンロードできる。なお、草稿の段階で、「福島子ども健康プロジェクト」事務局の伊藤晶子さん、森山亜由子さん、稲垣亜希子さんに多大なご協力をいただいた。記して感謝したい。
- ² 2012年10月から12月の時点で9市町村の役場で標本抽出を行った。その時点で、2008年度出生児の全員は6191名。
- ³ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「1,200 Fukushima Mothers Speak: アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』8(1) : 91-194を参照。
- ⁴ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「700 Fukushima Mothers Speak: 2014年アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』8(2) : 1-74を参照。
- ⁵ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2017, 「原発災害からの生活復興（レジリエンス）とはなにか: 2015年調査の自由回答欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』10(2) : 199-268を参照。
- ⁶ モラルハラスメントの略で、目に見える暴力ではなく、言葉や態度による暴力と定義づけられる。

